

社会福祉科（昼間課程）

2023 年度 シラバス目次

科目名	項
人体の構造と機能及び疾病	2
心理学理論と心理的支援	7
社会理論と社会システム	10
現代社会と福祉	13
社会調査の基礎	15
相談援助の基盤と専門職	17
相談援助の理論と方法	21
地域福祉の理論と方法	27
福祉行財政と福祉計画	29
福祉サービスの組織と経営	31
社会保障	32
高齢者に対する支援と介護保険制度	36
障害者に対する支援と障害者自立支援制度	40
児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	43
低所得者に対する支援と生活保護制度	45
保健医療サービス	47
就労支援サービス	49
権利擁護と成年後見制度	51
更生保護制度	53
相談援助演習	55

科目名	項
相談援助実習指導	63
相談援助実習	66

学科・年次	1 学年
科目名	人体の構造と機能及び疾病
担当者	石黒智美
単位数（時間数）	1 単位（30 時間）
学習方法	講義
教科書・参考書	『最新・社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座1 医学概論』 中央法規出版 2021 年 日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集
授業概要と目的	
<ul style="list-style-type: none"> 心身機能と身体構造ならびに様々な疾病や障害の概要について、人間の成長と発達および日常生活での関連を踏まえて理解する。 国際生活機能分類の基本的な考え方と内容を知る。 リハビリテーションに関わる支援の概要を学ぶ。 	

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	通年	「ライフステージにおける心身の変化と健康課題」 ・ライフステージにおける心身の変化について理解する ・心身の加齢・老化について理解する。 ・ライフステージ別の健康課題について理解する	「ライフステージにおける心身の特徴」 ・乳幼児の特徴について、体重と身長が発達のスピードの違いを説明できる。 ・原始反射の種類について説明できる。 ・エリクソンの発達課題について説明できる。 ・加齢と老化の違いについて説明できる。	石黒
2	通年	「健康および疾病の捉え方」 ・臓器の加齢変化について理解する。 ・老年症候群について理解する。 ・健康と疾病の概念について理解する。 ・国際生活機能分類 (ICF) について理解する。	「健康および疾病の概念・ICF」 ・臓器の加齢変化について顕著なものを説明できる。 ・生理的老化と病的老化の違いについて説明できる。 ・健康寿命について説明できる。 ・ICIDH と ICF の違いについて説明することができる。	石黒
3	通年	「身体構造と心身機能①」 ・人体部位の名称について理解する。	「骨格系、筋系、循環器系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系の解剖・生理」	石黒

		<ul style="list-style-type: none"> ・骨格系、筋系、循環器系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系の解剖・生理について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・骨の名称が言え、その位置について説明できる。 ・体循環、肺循環について説明できる。 ・肝臓の機能を3つ述べることができる。 ・肺と気管支の構造上の左右差について説明できる。 ・腎臓の位置が説明できる。 	
4	通年	<p>「心身の機能と身体構造②」</p> <p>「疾病と障害の成り立ちおよび回復過程」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生殖器系、内分泌系、神経系、感覚器系の解剖・生理について理解する。 ・疾病の発生原因と成立機序について理解する。 	<p>「生殖器系、内分泌系、神経系、感覚器系の解剖・生理」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女性生殖器、男性生殖器の機能を述べることができる。 ・フィードバック機構について例をあげて説明ができる。 ・中枢神経と末梢神経の違いについて説明できる。 ・視覚器の構造について、眼球の水平断面図を見ながら、説明ができる。 ・皮膚の構造の3つの層について述べることができる。 <p>「疾病と障害の成り立ちおよび回復過程」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メタボリック・シンドロームの診断基準について説明ができる。 	石黒
5	通年	<p>「リハビリテーションの概要と範囲」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーションの定義・目的を理解する。 ・リハビリテーションの対象・方法を理解する。 	<p>「リハビリテーションの概要」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーションの定義について説明できる。 ・リハビリテーションの4つの側面について述べることができる。 ・ADL、IADL、QOLについて説明できる。 ・リハビリテーションに関わる専門職をあげ、その役割について説明できる。 ・包括的リハビリテーションについて説明できる。 	石黒
6	通年	<p>「疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション①」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症、高次脳機能障害について理解する。 	<p>「感染症、高次脳機能障害」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症発症の三大要因について説明できる。 ・ノロウイルス感染症について説明でき、有効とされている消毒液について述べることができる。 ・日和見感染症について説明ができる。 	石黒

			<ul style="list-style-type: none"> ・院内、施設内感染対策について説明できる。 ・高次脳機能障害の症状について、3つ述べることができる。 	
7	通年	<p>「疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション②」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症、神経難病について理解する。 	<p>「認知症、神経難病」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症の定義について説明できる。 ・認知症の検査について、代表的なものをあげ、説明できる。 ・アルツハイマー病と脳血管性認知症との違いについて説明できる。 ・パーキンソン病の三大兆候について、述べることができる。 	石黒
8	通年	<p>「疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション③」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脳血管疾患、心疾患について理解する。 	<p>「脳血管疾患、心疾患」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脳血栓と脳塞栓の発症の要因の違いについて説明できる。 ・くも膜下出血と脳出血の違いについて説明できる。 ・狭心症と心筋梗塞の症状の違いについて説明ができる。 ・不整脈の種類について説明できる。 	石黒
9	通年	<p>「疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション④」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内分泌・代謝疾患、呼吸器疾患、腎・泌尿器疾患について理解する。 	<p>「内分泌・代謝疾患、呼吸器疾患、腎・泌尿器疾患」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1型糖尿病とII型糖尿病の違いについて説明できる。 ・糖尿病の慢性合併症を3つあげることができる。 ・甲状腺機能亢進症と甲状腺機能低下症の症状の違いについて述べることができる。 ・COPDの定義について説明できる。 ・肺がんの種類と、できやすい部位について説明ができる。 ・慢性腎臓病（CKD）の定義を述べることができる。 ・尿失禁のタイプを述べ、その特徴を説明できる。 	石黒
10	通年	<p>「疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション⑤」</p>	<p>「消化器・肝胆膵疾患、骨・関節の疾患、血液・免疫・アレルギー疾患」</p>	石黒

		<ul style="list-style-type: none"> ・ 消化器・肝胆膵疾患、骨・関節の疾患、血液・免疫・アレルギー疾患について理解する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ウイルス性肝炎の種類をあげ、それぞれの特徴を説明できる ・ 骨粗鬆症により骨折しやすい部位をあげることができる。 ・ ロコモティブシンドロームについて説明できる。 ・ 主な貧血の種類を3つ述べるができる。 	
11	通年	<p>「疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション⑥」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 眼科疾患、視覚障害、耳鼻咽喉疾患、聴覚障害、平衡機能障害について理解する 	<p>「眼科疾患、視覚障害、耳鼻咽喉疾患、聴覚障害、平衡機能障害」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 輪状暗点、求心性視野狭窄、中心暗点のそれぞれの違いが説明できる。 ・ 伝音難聴と感音難聴の違いが説明できる。 ・ 良性発作性頭位めまい症の病状について述べるができる。 	石黒
12	通年	<p>「疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション⑦」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 口腔疾患、婦人科・産科、精神疾患について理解する 	<p>「口腔疾患、婦人科・産科、精神疾患」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 我が国の歯科保健の状況について説明できる。 ・ 妊娠の診断、妊婦健診、分娩までの一連の流れについて説明できる。 ・ 精神保健福祉法に定められた任意入院、医療保護入院、措置入院の制度を説明できる。 ・ 統合失調症の陽性症状について説明することができる。 	石黒
13	通年	<p>「疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション⑧」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発達障害、小児科疾患、肢体不自由、知的障害、先天性疾患について理解する 	<p>「発達障害、小児科疾患、肢体不自由、知的障害、先天性疾患」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自閉症スペクトラム症の主な症状について、説明することができる。 ・ 脳性まひのタイプについて説明できる。 ・ 知的障害の原因について、1つ述べることができる。 	石黒
14	通年	<p>「疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション⑨」</p> <p>「公衆衛生」「まとめ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者に多い疾患、生活習慣病、内部障害について理解する。 	<p>「高齢者に多い疾患、生活習慣病、内部障害、悪性腫瘍と緩和ケア」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 身体障害者福祉法での内部障害の種類について述べるができる。 ・ WHO の健康の定義について、説明できる。 	石黒

		<ul style="list-style-type: none"> ・悪性腫瘍と緩和ケアについて理解する。 公衆衛生の概要を理解する。 健康増進と保健医療対策について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・予防医学について、一次予防、二次予防、三時予防の概念を説明できる。 ・健康の社会的決定要因について説明できる。 	
15	通年	<p>「科目修了試験と解説」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科目全体の理解度について確認する。 	<p>「科目のまとめ、理解度の確認」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科目修了試験にて6割は正答することができる。 ・間違えた問題についても、解説を聞くことにより、理解することができる。 	石黒
成績評価方法		100点満点（科目試験）		
準備学習など		授業中に配布する「一問一答プリント」を、家庭でも復習すること。		
留意事項		特になし		

学科・年次	社会福祉科昼間課程 1学年
科目名	心理学理論と心理的支援
担当者	崎山 真里
単位数（時間数）	1単位(30時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	『最新・社会福祉養成講座2心理学と心理的支援』 一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟（編）中央法規出版

授業概要と目的
<ul style="list-style-type: none"> ・心理学理論による人の理解とその技法の基礎について理解する。 ・人の成長・発達と心理との関係について理解する。 ・日常生活と心の健康との関係について理解する。 ・心理的支援の方法と実際について理解する。 ・相談援助に必要な心理学的知識について理解する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・人を心理学的に理解することについて知る。 ・この講義で何を学ぶのか知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・この講義でどのようなことを学ぶのかを理解し、目的意識をもってこの後の授業に臨めるようにする。 	崎山
2	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・人の感覚・知覚・認知について学ぶ。 ・人の脳の構造について知る。 ・心と脳の関係について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人がどのように視覚からの情報を取り入れているのかを理解する。 ・人の身体行動・精神活動にはどの能部位が使われているのかを理解する。 	崎山
3	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・人や動物がどのような過程を経て学習したり、物事を記憶したりするのかについて知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・記憶の種類・物事を学習していく過程を学び、そのメカニズムについて理解する。 	崎山
4	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・人が成長する時にどのように知能が発達するのかについて知る。 ・知能と創造性について学ぶ。 ・人格と性格について学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人の知能発達について理解する。 ・人の人格や性格について、理論的に理解する。 	崎山

5	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・人が精神的・身体的に発達していく過程を学ぶ。 ・発達と心理の関係について学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発達の定義や、諸段階説について理解する。 	崎山
6	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・発達障害や発達検査について知り、それらについて学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発達障害について学び、その特性を知り、正しい理解へと繋げる。 ・心理検査の概要について知り、その特徴や特性などについて知る。 	崎山
7	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・人の情動や情緒について学際的に学ぶ。 ・感情にまつわる諸症状や、諸問題について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情動や情緒について理論的に理解する。 ・感情などに関わる諸症状や現代における諸問題について知り、理解を深める。 	崎山
8	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・人がいることで発生する環境・集団心理について学ぶ。 ・相手を理解する・自分のことを相手に話すということについて知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団になることで起こりうる心理的現象について知り、そのメカニズムについて理解する。 ・人を理解すること・自分のことを話すことについて理論的に学ぶ。 	崎山
9	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・欲求や動機づけとその行動を理論的に学ぶ。 ・原因帰属について学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人がどのような欲求や動機を持って行動する傾向にあるのかを理解する。 ・原因帰属にはどのような種類があるのかについて学び、理解する。 	崎山
10	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション技法について学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ・普段何気なく取っているコミュニケーションについて、対人援助職として必要な技法を知り、理解を深める。 	崎山
11	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・心理療法の概要と実際について学ぶ。 ・カウンセリングの概念と範囲について学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・心理療法について知る。 ・面接や見立てで重要とされていることについて理解し、「どのように面接を進行するのか」や、「どのように見立てていくのか」について理解する。 	崎山
12	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・心理的支援の方法と実際について知る。 ・「傾聴」について体験する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に心理療法について触れ、どのように行われているのかを体験し、理解する。 ・実際に体験し、傾聴や見立てについてどのような知識が必要とされるか理解する。 	崎山

13	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・ホメオスタシスのメカニズムについて知る。 ・日常生活と心の健康について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホメオスタシスについて知る。 ・ストレスが身体に及ぼす影響を理解し、対人援助職としてセルフマネジメントができるように理解を深める。 	崎山
14	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・ストレス反応が生じさせる性格特性について知る。 ・ストレッサーに関連する心理的反応について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ストレス反応が生じさせる性格特性について理解する。 ・ストレッサーに関連する心理的反応について理解を深める。 	崎山
15	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・科目認定試験実施 ・喪失について、学術的知識について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・科目試験を実施し、学習定着度を確認する。 ・喪失体験について、学術的知識について理解を深める。 	崎山
成績評価方法	100点満点（リアクションペーパー30点＋科目試験70点） 科目試験は、論述5題（50点）＋多肢選択問題20問（20点）で構成されているものとする。			
準備学習など	予め事項のテキストを読み、どのようなことを学ぶのかについて目を通してからの受講が望ましい。			
留意事項	適宜映像資料やロールプレイなどを用いて学びを深められるような授業を実施予定。			

学科・年次	社会福祉科（昼間課程）1 学年
科目名	社会理論と社会システム
担当者	山口 宏
単位数（時間数）	1 単位（30 時間）
学習方法	講義と1 回のみグループワーク
教科書・参考書	『新・社会福祉士養成講座3 社会理論と社会システム』中央法規出版

授業概要と目的
<p>家族や貧困、都市問題など、社会福祉士としての業務に携わっていくうえで背景的に必要となるような、さまざまな社会問題への理解を深める。また同時に、自明とされている社会の常識を疑い、多様な価値観を受容し、多角的に思考できる感覚を身につける。そのうえで国家試験への実践的対応力を身につける。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	「社会学ガイダンス」 社会学がどういうものか、概略を知る。	「常識を疑う視角を感じ取る」 ・昔の出来事・事件をいくつか見ていくなかで、価値観の違いを説明できる。 「現代のつながりのかたちをとらえる」 ・これから具体的テーマを考えていくための予備知識として、地域のつながりを作る新たな取り組みを説明できる。	山口宏
2	前期	「貧困と社会的排除」 貧困に関する基本用語を理解し、貧困の多面性も理解する。	「貧困の多様な側面の理解」 ・貧困が健康やコミュニケーション、孤立など様々な面に関わってくることを理解し、自分なりの見解を表現できる。 ・それに対する様々な取り組みを知り、その可能性について表現できるようにする。	山口宏
3	前期	「消費社会と生活の質」 生活に関わる諸概念と、消費社会の歴史を理解する。	「生活をめぐる諸概念と理論」 ・ライフサイクル/ライフコースの区別や、社会指標について説明できる。 ・消費社会の経済と理論を説明できる。	山口宏
4	前期	「地域と都市の諸問題」 地域・都市をめぐる学説と、地域政策の歴史を理解する。	「地域・都市社会学の学説」 ・日本の地域社会学史とシカゴ学派の内容が説明できる。 「地域政策と用語の理解」	山口宏

			<ul style="list-style-type: none"> 日本の戦後地域政策の流れと、地域をめぐる時事用語を理解する。 	
5	前期	<p>「家族のとらえ方と現在の課題」 家族の用語・学説と現在の変化を理解する。</p>	<p>「家族の用語・学説の理解」</p> <ul style="list-style-type: none"> 家族分類の諸概念とパーソンズらの学説を説明できる。 <p>「家族の歴史的変化の理解」</p> <ul style="list-style-type: none"> グラフにもとづき人口・世帯の変化を理解し、現在の課題について説明できる。 	山口宏
6	前期	<p>「行為と役割の理論」 自己や役割をめぐる諸概念を理解する。</p>	<p>「役割とコミュニケーションの理解」</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己の形成に関するミードなどの学説を説明できる。 ゴフマンなどのコミュニケーションの理論を理解し、それを日常場面に重ねて説明できる。 	山口宏
7	前期	<p>「集団と組織」 集団分類と組織の理論を理解する。</p>	<p>「集団分類の理解」</p> <ul style="list-style-type: none"> テンニースらの集団分類を理解し、具体例に応用できる。 <p>「組織の諸形態の理解」 官僚制の特徴と、そのマイナス面を理解できる。</p>	山口宏
8	前期	<p>「ジェンダー」 ジェンダーに関する概念と現在の問題を理解する。</p>	<p>「ジェンダーへの視角の理解」</p> <ul style="list-style-type: none"> フェミニズム運動の発展史を理解し、諸概念を説明できる。 労働や教育など現代社会の様々な場面で、ジェンダーをめぐる問題を説明できる。 	山口宏
9	前期	<p>「近代化と大衆社会の理論」 古典的な社会学の学説史と、大衆社会論を理解する。</p>	<p>「近代化の理解と社会学の古典理解」</p> <ul style="list-style-type: none"> ウェーバーやデュルケムなどの社会学が、近代化のなかでいかに生まれてきたかを説明できる。 <p>「大衆社会論の理解」</p> <ul style="list-style-type: none"> 大衆社会論が生まれた背景を理解し、その理論を現在に重ねて説明できる。 	山口宏
10	前期	<p>「社会問題のとらえ方」 社会問題の生成についての学説および社会的ジレンマを理解する。</p>	<p>「逸脱へのとらえ方の理解」</p> <ul style="list-style-type: none"> マーソンのアノミー論など、逸脱へと追いやる社会過程の理論を理解する。 <p>「問題として構成される過程への理解」</p> <ul style="list-style-type: none"> ラベリング論と構築主義を理解し、社会がいかに社会問題を形成していくかを説明できる。 	山口宏

11	前期	「グローバル化と日本の外国人」 グローバル化の特徴を理解し、現在の日本での外国人をめぐる問題も理解する。	「グローバル化の諸側面の理解」 ・文化とグローバル化に関する概念と見方を理解する。 「日本のなかの外国人をめぐる課題の理解」 ・在留外国人のデータを把握し、技能実習生などの課題を理解できる。	山口宏
12	前期	「法と倫理・福祉国家」 法の定義と分類を理解し、さらに福祉国家の発展史を理解する。	「法と社会的権利の理解」 法の特性・分類と社会権の発展を説明できる。 「福祉国家の理解」 福祉国家の歴史を理解し、その枠組みのなかで優生思想を位置づけて理解する。	山口宏
13	前期	「情報化と環境問題」 情報化・メディアをめぐる課題を理解し、環境問題の諸概念も理解する。	「情報化とメディアの理解」 ・マクルーハンなどのメディア論を理解し、現在のメディアの時事的問題も理解する。 「環境問題の歴史と現在の理解」 ・公害・環境問題の流れを理解し、現在の取り組みと課題を理解する。	山口宏
14	前期	「グループワーク」	・これまで扱ったテーマを絡めながら、10個程度の問題に対して、話し合っそれぞれ答えを導き出す。	山口宏
15	前期	「まとめと試験」	・試験を通して、今までの理解を深める。	山口宏
成績評価方法		授業参加度 20 点 科目試験 80 点		
準備学習など		テーマに合わせて、教科書に目を通しておいください。		

学科・年次	社会福祉科昼間課程 1学年
科目名	現代社会と福祉
担当者	中村豪志
単位数（時間数）	2単位(60時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	『新・社会福祉養成講座4 現代社会と福祉』社会福祉士養成講座編集委員会（編）中央法規出版

授業概要と目的
<ul style="list-style-type: none"> ・福祉国家がどのような歴史的背景のなかで生まれ、どのように形成されてきたのかについて理解する。 ・福祉や福祉政策の意義や性格について、市場の論理との対比や政治哲学の観点から理解する。 ・福祉政策の理念・主体・手法について、関連領域や国際比較を関連させて理解する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	通年	本科目の特性を理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目の位置と概要を理解する ・本科目の国家試験の内容を理解する 	中村
2	通年	現代社会の取り組むべき課題を理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・人権の概念を理解する ・差別・偏見・社会的排除を理解する 	中村
3	通年	現代社会と取り組むべき課題を理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・貧困の定義を理解する ・子どもの貧困の現状を理解する 	中村
4	通年	現代社会と取り組むべき課題を理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会における差別・偏見を理解する 	中村
5	通年	現代社会の課題と相談援助	<ul style="list-style-type: none"> ・地域を基盤とした相談援助活動の実際 	中村
6	通年	現代社会の課題と相談援助	<ul style="list-style-type: none"> ・学校を基盤とした相談援助活動の実際 	中村
7	通年	イギリスの社会福祉政策の形成と展開	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統社会から近代社会への過程を理解する ・貧困問題の発生と旧救貧法を理解する 	中村
8	通年	イギリスの社会福祉政策の形成と展開	<ul style="list-style-type: none"> ・新救貧法の成立を理解する ・民間社会福祉部門を理解する 	中村
9	通年	イギリスの社会福祉政策の形成と展開	<ul style="list-style-type: none"> ・貧困調査の意義を理解する ・ベヴァリッジ体制の確立を理解する 	中村
10	通年	イギリスの社会福祉政策の形成と展開	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティケアと福祉多元主義を理解する ・近年のイギリスの福祉政策を理解する 	中村
11	通年	日本の社会福祉政策の形成と展開	<ul style="list-style-type: none"> ・近代国家形成以前の救済事業を理解する ・近代における救済制度と慈善事業を理解する 	中村
12	通年	日本の社会福祉政策の形成と展開	<ul style="list-style-type: none"> ・社会事業の形成過程を理解する ・第二次世界大戦までの社会事業を理解する 	中村

13	通年	日本の社会福祉政策の形成と展開	<ul style="list-style-type: none"> ・戦後社会福祉政策の成立を理解する ・高度経済成長期の福祉政策を理解する 	中村
14	通年	日本の社会福祉政策の形成と展開	<ul style="list-style-type: none"> ・「福祉元年」と「福祉見直し」を理解する ・社会福祉基礎構造改革を理解する 	中村
15	通年	中間まとめ試験		中村
16	通年	福祉政策の諸過程	<ul style="list-style-type: none"> ・必要と福祉ニーズを理解する ・福祉サービスに関わる資源と供給を理解する 	中村
17	通年	福祉政策の諸過程	<ul style="list-style-type: none"> ・市場の特質を理解する ・福祉政策の手法、策定過程、評価を理解する 	中村
18	通年	福祉政策の国際比較	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉国家の類型を理解する ・諸外国の福祉政策を理解する 	中村
19	通年	社会福祉に関わる理論と思想	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の社会福祉、社会政策の理論を理解する ・福祉に関わる政治哲学、政治思想を理解する 	中村
20	通年	社会福祉に関わる理論と思想	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の貧困の捉え方を理解する ・福祉に関わる諸概念を理解する 	中村
21	通年	福祉政策の関連領域	<ul style="list-style-type: none"> ・住宅政策の近年の特徴を理解する ・教育政策の近年の特徴を理解する 	中村
22	通年	福祉政策の関連領域	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症支援の近年の特徴を理解する ・災害支援の近年の特徴を理解する 	中村
23	通年	福祉政策の関連領域	<ul style="list-style-type: none"> ・少子化対策の近年の特徴を理解する ・社会的養育の近年の特徴を理解する 	中村
24	通年	福祉政策の関連領域	<ul style="list-style-type: none"> ・相談援助活動と福祉政策の関係を理解する 	中村
25	通年	福祉政策の課題と展望を理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会における社会的排除を理解する ・上記を自分に引き付けて理解する（演習） 	中村
26	通年	福祉政策の課題と展望を理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会におけるリスクを理解する ・上記を自分に引き付けて理解する（演習） 	中村
27	通年	福祉政策の課題と展望を理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会における貧困・失業を理解する ・上記を自分に引き付けて理解する（演習） 	中村
28	通年	福祉政策の課題と展望を理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会における要援護を理解する ・上記を自分に引き付けて理解する（演習） 	中村
29	通年	福祉政策の課題と展望を理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会における自立を理解する ・上記を自分に引き付けて理解する（演習） 	中村
30	通年	期末試験と解説		中村
成績評価方法		中間試験 30%、科目試験 70%		
準備学習など		理論・歴史を学ぶ科目であり、少々難解な内容もあります。「科目横断的科目」ですので、適宜復習しながら一步一步着実に学習してください。		

学科・年次	社会福祉科昼間課程 1学年
科目名	社会調査の基礎
担当者	石橋康正
単位数（時間数）	1単位(30時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	『新・社会福祉士養成講座5 社会調査の基礎』 社会福祉士養成講座編集委員会（編）中央法規出版

授業概要と目的
<p>ソーシャルワークの実践を支える社会調査の基礎的な知識と技法の修得を目的とする。まず社会福祉における社会調査の意義、目的、対象等の基礎的知識を理解し、統計法および調査における倫理的配慮や個人情報保護といった重要事項を確認したうえで、量的調査と質的調査の考え方・手法を重点的に身につける。また、国家試験対策として過去問や練習問題を解きながら授業内容の理解を深め、知識の定着を図る。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	オリエンテーション ・社会調査の全体像を把握する	・社会科学における社会調査の位置づけを理解する ・調査主体に応じた社会調査の分類について説明できる	石橋
2	後期	社会福祉と社会調査 ・社会調査の歴史を福祉との関わりから読み解く	・社会調査の成り立ちを、国土調査、国勢調査、社会踏査、統計学、世論調査等と関連づけながら説明できる ・統計法の目的と仕組みを理解する	石橋
3	後期	質的調査の方法（1） ・質的調査の概要を把握する	・質的調査における問い、テーマ設定、仮説、調査手続きの流れを理解する	石橋
4	後期	質的調査の方法（2） ・質的調査の手法を理解する	・面接法と観察法の各特徴を説明できる ・調査の計画から実施までの手順を理解する	石橋
5	後期	質的調査の方法（3） ・質的データの分析法を理解する	・GTAを中心として複数の分析手法を理解する ・データの記録と分析の手順を説明できる	石橋
6	後期	質的調査のまとめ ・質的調査の特徴と手続きを理解する	・質的調査の特徴や意義を説明できる ・テーマ設定、調査の実施、データの分析に至る手順について説明できる	石橋

7	後期	量的調査の方法（１） ・量的調査の特徴を理解する	・全数調査と標本調査の違いを説明できる ・代表性と標本誤差の考え方を理解する ・標本抽出の手法を説明できる	石橋
8	後期	量的調査の方法（２） ・質問紙の設計方法を理解する	・変数、仮説、尺度の考え方を理解する ・質問紙の作成における注意点を説明できる	石橋
9	後期	量的調査の方法（３） ・調査方法の特徴を理解する	・自計式調査と他計式調査の特徴を説明できる ・郵送法、訪問面接法等の調査方法のメリットとデメリットについて説明できる	石橋
10	後期	量的調査の方法（４） ・データ分析の基礎を理解する	・データの要約の基本を理解する ・代表値と散布度の違いを説明できる	石橋
11	後期	量的調査の方法（５） ・データの要約と記述統計の基本を理解する	・データの特徴に合わせてグラフ・表を選択できる ・因果関係と相関関係の違いを説明できる	石橋
12	後期	量的調査の方法（６） ・さまざまなデータ分析の手法を理解する	・量的データの関連性と分析法を理解する ・多変量解析の目的と特徴を説明できる	石橋
13	後期	量的調査のまとめ ・量的調査の特徴と手続きを理解する	・量的調査の特徴や意義を説明できる ・調査計画、実査、分析に至る手順について説明できる	石橋
14	後期	社会調査の倫理と個人情報保護 ・倫理的配慮と個人情報保護の重要性を理解する 社会調査における IT の活用 ・社会調査をとりまく環境と技術活用の事例を把握する	・調査の各段階において求められる倫理的配慮および個人情報保護の具体的な方策を説明できる ・近年の社会調査をとりまく社会環境や、IT 技術の活用とその課題について説明できる	石橋
15	後期	まとめと科目試験 ・社会調査のまとめ	・社会福祉士にとっての社会調査の意義と重要性を説明できる	石橋
成績評価方法		100 点満点（小テスト 20 点+科目試験 80 点）		
準備学習など		特になし		
留意事項		特になし		

学科・年次	1 学年
科目名	相談援助の基盤と専門職
担当者	第 1～15 回：檜垣道隆 / 第 16～30 回：市川知律
単位数（時間数）	2 単位（60 時間）
学習方法	講義
教科書・参考書	『最新・社会福祉養成講座 11 ソーシャルワークの基盤と専門職[共通・社会専門]』 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集 中央法規出版

授業概要と目的	
<p>本科目は 2 人の教員にて前後半で分けて授業を担当する。</p> <p>前半：「ソーシャルワーク専門職の基盤形成に必要な基礎学習(国試対策含む)」</p> <p>後半：「多様なソーシャルワーク事例をとおした実践的学習」として進めていく。</p> <p>福祉ニーズの広範化と深刻化が進む現代社会において、人として生まれながらに持っている権利が守られ、地域で自らの意思決定により人生を送るために「総合的かつ包括的な相談援助」の担い手が求められている。</p> <p>本講義は、ソーシャルワーク専門職の基盤形成に必要な知識および価値を中心に学び、「総合的かつ包括的な相談援助」の専門的機能を理解することを目的とする。なお、社会福祉士として、福祉事業所等で現場経験のあるものが、その経験を活かし講義を行う。</p>	

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	通年	「オリエンテーション」 ・科目の概要と目的を知る。 「第 1 章：SW 専門職の役割と意義」 ・ソーシャルワーク専門職とは何かを理解する	「オリエンテーション」 「SW とは、法的位置づけ、コンピテンシー」 ・資格の特性、根拠法と成立の背景などを説明できる ・ソーシャルワーカーに期待されていることを説明できる	檜垣
2	通年	「第 2 章：SW の概念」 ・ソーシャルワークの概念を理解する	「SW の概念と構成要素」 ・ソーシャルワーク専門職のグローバル定義についてイメージできる ・ソーシャルワークに関連する言葉の意味を説明できる	檜垣
3	通年	「第 3 章：SW の基盤となる考え方」 ・SW 実践における重要な考え方：『原理』を理解する	「SW の原理」 ・「社会正義」「人権尊重」「多様性尊重」の考え方について、自分なりにイメージできる	檜垣

4	通年	「第3章：SWの基盤となる考え方」 ・SW実践における重要な考え方：『理念』を理解する	「SWの理念」 ・「ソーシャルワークの理念」について、自分なりにイメージできる	檜垣
5	通年	「第4章：SWの形成過程」 ・ソーシャルワークの形成過程：『SW源流と基礎確立期』を理解する	「SWの源流と基礎確立期」 ・ソーシャルワークのはじまりについて、自分なりにイメージできる ・重要語句および人物を関連づけて認識することができる	檜垣
6	通年	「第4章：SWの形成過程」 ・ソーシャルワークの形成過程：『SWの発展期』を理解する。	「SWの発展期」 ・ソーシャルワークの発展期について、自分なりにイメージできる ・重要語句および人物を関連づけて認識することができる	檜垣
7	通年	「第4章：SWの形成過程」 ・ソーシャルワークの形成過程：『SWの展開期と統合化』を理解する。	「SWの展開期・統合化」 ・ソーシャルワークの展開期・統合化について、自分なりにイメージできる ・重要語句および人物を関連づけて認識することができる	檜垣
8	通年	「第4章：SWの形成過程」 ・ソーシャルワークの形成過程：『日本におけるSWの形成過程』を理解する。	「日本におけるSWの形成過程」 ・日本におけるSWの形成過程について、自分なりにイメージできる ・重要語句および人物を関連づけて認識することができる	檜垣
9～10	通年	「SW実践者の想いと基盤」 ・ソーシャルワーカーの基盤形成に必要なものについて理解を深める。 ※MSW、SSW、行政、社協、児童養護のSWを予定	「ソーシャルワーカーday①」 ・SW専門職の実践の実際を知る ・基盤形成に必要なものについて、自分なりにイメージできる	檜垣
11	通年	「第4章：SWの倫理」 ・ソーシャルワークの倫理を理解する。	「SWの倫理」 ・専門職倫理が何かということを言葉にすることができる ・倫理綱領について、内容を説明することができる ・倫理的ジレンマについて自分なりにイメージすることができる	檜垣
12～13	通年	「SW実践者の想いと基盤」 ・ソーシャルワーカーの基盤形成に必要なものについて理解を深める。	「ソーシャルワーカーday②」 ・SW専門職の実践の実際を知る	檜垣

		※MSW、SSW、行政、社協、児童養護のSWを予定	・基盤形成に必要なものについて、自分なりにイメージできる	
14	通年	「第1～5章：前半の振り返り」 ・科目前半の復習	「科目前半の復習」 ・前半に触れた事柄を思い起こし、理解を深めることができる	檜垣
15	通年	中間まとめと解説	・自らの学習を振り返り、学習方法の修正および学習意欲を高めることができる。	檜垣
16	通年	相談援助とケアマネジメント	相談援助技術全般と1手法としてのケアマネジメントを学ぶ	市川
17	通年	ケアマネジメント手法	ケアマネジメントの工程や効果、目標や定義を知る	市川
18	通年	演習1（身体） アパシーな状態にあるケース アセスメント	ニーズ把握の難しいケースへのアプローチ方法を学び、エンパワメント支援を知る	市川
19	通年	演習1（身体） アパシーな状態にあるケース 計画の立案	ニーズ把握の難しいケースへのアプローチ方法を学び、エンパワメント支援を知る	市川
20	通年	演習1（身体） アパシーな状態にあるケース 共有とまとめ	ニーズ把握の難しいケースへのアプローチ方法を学び、エンパワメント支援を知る	市川
21	通年	演習2（知的、精神、身体重複） 支援困難なケース アセスメント	支援困難な多問題ケースへのアプローチを学び、環境との相互作用を知る	市川
22	通年	演習2（知的、精神、身体重複） 支援困難なケース 計画立案	支援困難な多問題ケースへのアプローチを学び、環境との相互作用を知る	市川
23	通年	演習2（知的、精神、身体重複） 支援困難なケース 共有とまとめ	支援困難な多問題ケースへのアプローチを学び、環境との相互作用を知る	市川
24	通年	虐待対応について	虐待対応とそのメカニズムを学ぶ	市川
25	通年	演習3（虐待） 配偶者による虐待のケース アセスメント	虐待事例を通し、その解決と養護者支援の重要性を学ぶ	市川

26	通年	演習3（虐待） 配偶者による虐待のケース 計画立案	虐待事例を通し、その解決と養護者支援の重要性を学ぶ	市川
27	通年	演習3（虐待） 配偶者による虐待のケース 共有とまとめ	虐待事例を通し、その解決と養護者支援の重要性を学ぶ	市川
28	通年	講師事例の事例検討会	模擬的に事例検討を行い、事例検討に必要な知識を身につける	市川
29	通年	終講試験用の事例の出題	講師の持ち事例を実際にアセスメントし問題の解決手法を考える	市川
30	通年	終講試験とまとめ	学んだ知識が生かせることを確認する	市川
成績評価方法		各担当最終コマにて「中間まとめ（檜垣）」「科目試験（市川）」として、それぞれ100点満点のテストを実施し、それらを按分して最終評価とする。		
準備学習など		ソーシャルワークを行ううえでは、福祉分野のみならず、社会情勢や政治、経済、地域のニュースなど、あらゆる動向について多面的な視点で認識していく姿勢が求められます。普段の生活のなかでも常にアンテナを張り、一元的な視点に終始しないよう意識して物事を見るようにしてください。		
留意事項		特になし		

学科・年次	社会福祉科昼間課程 1 学年
科目名	相談援助の理論と方法 I
担当者	中上純二
単位数 (時間数)	2 単位(60 時間)
学習方法	講義及び演習
教科書・参考書	新・社会福祉士養成講座 7 相談援助の理論と方法 I 社会福祉士養成講座編集委員会 (編集)・中央法規出版株式会社

授業概要と目的
<p>▼人は、生きていくうえで様々な出来事に直面する。ソーシャルワーク（相談援助）とは、利用者の人生で起きる様々な困り事に対して、まずは相談から始まり、利用者自身で歩いていくことができるよう支援（自立支援）を探っていく。その際に、あるべき姿（ゴール）を見立て、そのゴールから逆算して「今、何が必要か」を考える、それがニーズとなる。ゴールを見立てるためには、利用者目線でのアセスメントをできる限りしっかりと押さえることが必要となる。そして、最終的には相談援助が不要となり、利用者が自ら人生を歩いていく。▼利用者の様々な人生のあらゆる場面での困りごとに対応するからこそソーシャルワークの守備範囲は広い。また利用者を取り巻く環境や資源も大きく影響する。そこに介入することもソーシャルワークの役割となる。他職種と連携しながら、利用者の人生を支えていくことが専門性の軸となる。▼様々な事例を通して、相談援助の理論と方法を学ぶ。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	通年	講師自己紹介にかえて～ソーシャルワークの大枠を捉える。	社会福祉士の専門性を理解する。	中上
2	通年	ソーシャルワークが行われる実践の場 面を体験する。	事例から、ソーシャルワークを理解する。	中上
3	通年	第 1 章；相談援助とは ソーシャルワークの定義及び構成要素 を理解する。	ソーシャルワークの定義を説明する ことができる。	中上
4	通年	第 1 章；相談援助とは 事例からソーシャルワークを理解する。	ソーシャルワーク事例から、具体的な 仕事また連携の重要性を理解する。	中上
5	通年	第 2 章；相談援助の構造と機能 ソーシャルワークの構造を理解する。	ソーシャルワークの構造を多面的に 理解することができる。	中上
6	通年	第 2 章；相談援助の構造と機能 ソーシャルワークにおけるニーズを理 解する。	ニーズのとらえ方を理解する。	中上
7	通年	第 3 章；人と環境の相互作用 ソーシャルワークにおける環境の理解	ソーシャルワークにおける「環境」を 理解する。	中上
8	通年	第 4 章；相談援助における援助関係 ミクロ・メゾ・マクロの方法論の理解	援助関係の形成とその効果を理解する。	中上

9	通年	第4章；相談援助における援助関係 援助関係の形成のプロセスを理解する。	援助関係の形成におけるソーシャル ワークの専門性を理解する。	中上
10	通年	第4章；相談援助における援助関 援助関係の形成における事例検討	事例から、援助関係形成を理解する。	中上
11	通年	第5～6章；相談援助の展開過程 援助関係の展開過程の枠組みを理解する。	援助関係の展開過程の流れを理解する。	中上
12	通年	第5～6章；相談援助の展開過程 相談援助の具体的なプロセスを理解する。	相談援助の展開における具体的なプ ロセスを事例から理解することがで きる。	中上
13	通年	第5～6章；相談援助の展開過程 アセスメントについて理解する。	アセスメントから目標設定、援助計画 の立案を理解する。	中上
14	通年	第5～6章；相談援助の展開過程 アフターケアについて理解する。	アフターケア及び自立支援について 理解する。	中上
15	通年	第5～6章；相談援助の展開過程 相談援助の展開過程をのまとめ	事例を通して、相談援助の展開過程を 理解する。	中上
16	通年	第7章；相談援助のためのアウトリ ーチの技術 アウトリーチについて理解する。	アウトリーチの意義と目的について 理解する。	中上
17	通年	第8章；相談援助のための契約の技術 相談援助における契約について理解する。	契約における全問性について理解する。	中上
18	通年	第9章；相談援助のためのアセスメン トの技術 アセスメントについて理解する。	アセスメントの特性について理解する。	中上
19	通年	第9章；相談援助のためのアセスメン トの技術 アセスメントをツールから理解する。	具体的に事例からアセスメントツ ールを理解する。	中上
20	通年	第10章；相談援助のための介入の技術 介入の意義と方法を理解する。	介入の技術・方法・留意点を理解する。	中上
21	通年	第11章；相談援助のための経過観察、 再アセスメント、効果測定、評価の技術 モニタリング及び再アセスメントにつ いて理解する。	モニタリングの重要性、再アセスメン ト、評価について理解する。	中上
22	通年	第11章；相談援助のための経過観察、 再アセスメント、効果測定、評価の技術 モニタリング及び再アセスメントにつ いて理解する。	事例を通して、モニタリングの重要 性、再アセスメント、評価について理 解する。	中上
23	通年	第12章；相談援助のための面接の技術 面接の目的を理解する。	面接の意義目的を理解する。	中上
24	通年	第12章；相談援助のための面接の技術 面接の技術を理解する。	面接におけるコミュニケーション技 術を理解する。	中上

25	通年	第 13 章 ; 相談援助のための記録の技術 記録について理解する。	記録の意義と目的を理解する。	中上
26	通年	第 13 章 ; 相談援助のための記録の技術 記録の種類を理解する。	相談援助における記録の重要性を理解する。	中上
27	通年	第 14 章 ; 相談援助のための交渉の技術 他職種連携を理解する。	他職種の理解及び連携を理解する。	中上
28	通年	第 14 章 ; 相談援助のための交渉の技術 他職種連携を理解する。	事例を通して、他職種連携を理解する。	中上
29	通年	全体のまとめ	ソーシャルワークの理論と方法についての自身の理解度を把握する。	中上
30	通年	科目終了試験及び最終講義	ソーシャルワークの専門性を改めて問う。	中上
成績評価方法		100 点満点（科目修了試験）＋出席、授業姿勢状況		
準備学習など		他科目との関連性を日頃から意識する。 相談援助にかかわる時事の情報を収集し、自身の考えを導き出してみる。		
留意事項		講義方法については、講義及びグループワークの形式について随時指示します。 テキストのほかに、配布資料、視聴教材等を随時提示します。		

学科・年次	1 学年
科目名	相談援助の理論と方法Ⅱ
担当者	仲野 文伸
単位数（時間数）	2 単位（60 時間）
学習方法	講義
教科書・参考書	『新・社会福祉養成講座 8 相談援助の理論と方法Ⅱ』 社会福祉士養成講座編集委員会（編）中央法規出版

授業概要と目的
支援を必要とする個人、家族、小集団・組織、地域社会をクライアント・システムとしてとらえ、生活困窮者、要介護高齢者、障害者など、どのような対象者であろうと、相談援助の過程でソーシャルワークの様々なアプローチを活用しながら、広がりのある社会福祉士の実践力を身につけることを目標とする。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	通年	「第 1 章相談援助における対象者の理解」	・社会福祉援助活動の概念と定義を理解できる。	仲野
2	通年	「第 1 章相談援助における対象者の理解」	・相談援助の対象をどうとらえるか理解できる。	仲野
3	通年	「第 2 章ケースマネジメント（ケアマネジメント）」	・ケースマネジメントの基本と過程を理解できる。	仲野
4	通年	「第 2 章ケースマネジメント（ケアマネジメント）」	・ケースマネジメント作成・実施の特徴を理解できる。	仲野
5	通年	「第 3 章グループを活用した相談援助」	・グループを活用した相談援助を理解できる。	仲野
6	通年	「第 3 章グループを活用した相談援助」	・自助グループを活用した相談援助を理解できる。	仲野
7	通年	「第 4 章コーディネーションとネットワークワーキング」	・コーディネーションの目的と意義を理解できる。	仲野
8	通年	「第 4 章コーディネーションとネットワークワーキング」	・ネットワークワーキングの方法を理解できる。	仲野

9	通年	「第5章相談援助における社会資源の活用・調整・開発」	・社会資源の活用・調整・開発の意義と目的を理解できる。	仲野
10	通年	「第5章相談援助における社会資源の活用・調整・開発」	・ソーシャルアクションによるシステムづくりを理解できる。	仲野
11	通年	「第6章さまざまな実践モデルとアプローチⅠ」	・治療モデル、生活モデル、ストレングスモデルを理解できる。	仲野
12	通年	「第6章さまざまな実践モデルとアプローチⅠ」	・ジェネラリスト・ソーシャルワークの展開と実践モデルを理解できる。	仲野
13	通年	「第7章さまざまな実践モデルとアプローチⅡ」	・心理社会的、機能的、問題解決アプローチを理解できる。	仲野
14	通年	「第7章さまざまな実践モデルとアプローチⅡ」	・課題中心、危機介入、行動変容アプローチを理解できる。	仲野
15	通年	中間の振り返り	・自らの学習を振り返り、学習方法の修正および学習意欲を高めることができる。	仲野
16	通年	「第8章さまざまな実践モデルとアプローチⅢ」	・エンパワメント、ナラティブアプローチを理解できる。	仲野
17	通年	「第8章さまざまな実践モデルとアプローチⅢ」	・認知アプローチ、その他のアプローチを理解できる。	仲野
18	通年	「第9章スーパービジョンとコンサルテーション」	・スーパービジョンの意義と方法を理解できる。	仲野
19	通年	「第9章スーパービジョンとコンサルテーション」	・コンサルテーションを理解できる。	仲野
20	通年	「第10章ケースカンファレンスの技術」	・ケースカンファレンスの意義と目的を理解できる。	仲野
21	通年	「第10章ケースカンファレンスの技術」	・ケースカンファレンスの実際を理解できる。	仲野

22	通年	「第 11 章相談援助における個人情報の保護」	・個人情報の考え方を理解できる。	仲野
23	通年	「第 11 章相談援助における個人情報の保護」	・個人情報の制度を理解できる。	仲野
24	通年	「第 12 章相談援助における情報通信技術（ICT）の活用」	・情報通信技術（ICT）と福祉情報を理解できる。	仲野
25	通年	「第 13 章事例分析・事例研究」	・事例研究の目的と意義が理解できる。	仲野
26	通年	「第 13 章事例分析・事例研究」	・事例分析の目的と意義が理解できる。	仲野
27	通年	「第 14 章相談援助の実際」	・社会的排除に対するソーシャルアクションにつながった事例で実践力を身につける。	仲野
28	通年	「第 14 章相談援助の実際」	・その他の事例で実践力を身につける。	仲野
29	通年	「第 14 章相談援助の実際」	・その他の事例で実践力を身につける。	仲野
30	通年	全体のまとめ	・全体を振り返り、ソーシャルワーカーの実践力が身についたか確認できる。	仲野
成績評価方法		科目試験と授業取組みの総合評価とする。		
準備学習など		日ごろから、社会問題に関心を持ち、新聞、TV のドキュメンタリー・ニュースから社会への関心を持ち、考察力、感受性を養う。		
留意事項		特になし		

学科・年次	社会福祉科昼間課程 1 学年
科目名	地域福祉の理論と方法
担当者	江原隆宜
単位数（時間数）	2 単位(60 時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	『新・社会福祉士養成講座 9 地域福祉の理論と方法第 3 版』社会福祉士養成講座編集委員会 (編) 中央法規出版

授業概要と目的	
<p>【目標】地域福祉を推進する組織・機関及び連携の仕組みを説明できる</p> <p>1974 (昭和 49) 年に日本ではじめて「地域福祉」を体系的に論じた岡村重夫は、「対象者をとりまく地域社会そのものを直接の対象とする社会福祉の方法がなくてはならない。そこにケースワークも含めた高次の社会福祉概念として『地域福祉』という新しい接近法が要求されるのである」(岡村『地域福祉論』光生館、p2) と述べている。地域社会は、地域住民の暮らしの場であり、そこでは、ニーズ充足のための資源・サービスを得るために多様な社会関係が形成されている。</p> <p>誰もが安心して暮らせるための地域福祉としては、利用可能な福祉サービスや社会的資源が十分に存在することが重要であるが、一方で、それらの福祉サービス・資源をより有効に活用できるための仕組みがなくてはならない。言い方を変えれば、家庭・個人の限界を、家庭外部の資源・サービスでどのように補い得るのかである。そのありようは地域社会によって異なっている。特に住民同士のつながりは、都市と農村など地域社会によって大きく異なっている。「事件」としての児童虐待、孤独死、老々介護による自殺などが起こる背景に、その家庭の「限界」を、近隣住民、行政機関、専門職がキャッチできなかったことがある。</p> <p>これは、家庭の個別問題ではあるが、その背景には地域住民または地域社会構成員の価値規範、意識の違いがある。経済優先の国家・地方政策によって人々のつながりは一層希薄になっている。自分や家族が生きることで精一杯な状況の中で、地域福祉の推進または調整や連携の役割を担っている代表的な機関・組織は、自治会、行政の福祉機関、市区町村社会福祉協議会、民生委員・児童委員、地域包括支援センター、社会福祉法人・NPO 法人等である。社会福祉士（ソーシャルワーカー）として地域社会で活躍するためには、「地域福祉」の現状を捉え、家庭の限界を補い得る地域社会づくりができなければならない。そのため、社会福祉士国家試験では、これらに関する法・制度や歴史、役割などが頻出問題になっている。すなわち、「地域社会そのものを直接の対象とする社会福祉の方法」の主な課題は、その地域社会における「住民」と「行政」が「福祉」のためにどのように「連携」できるのか、そういった社会関係とはどのような関係性であって、どうすれば形成できるかにあるのである。したがってこの科目では、地域福祉を推進する組織・機関及び連携の仕組みを説明できることを目標にする。</p>	

回	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	通年	科目を学ぶ意義が理解できる。	科目の到達目標及び授業方法を説明できる。	江原
2	通年	地域福祉の意義を理解できる。	社会保障と地域福祉の違いを説明できる。	江原
3	通年	地域福祉のイメージをつかむ。	ささえあい活動の事例から住民参加の意義が理解できる。	江原
4	通年	地域福祉の枠組み・視点が理解できる。	地域社会での「連携」を系統的に説明できる。	江原
5	通年	地域福祉の発展過程が理解できる。	生活と社会福祉の法・制度の変化を説明できる	江原・学生
6	通年	福祉コミュニティの考え方が理解できる。	地域福祉サービスシステムとしての地域福祉を説明できる	江原・学生
7	通年	日本の地域福祉に影響を与えたイギリスのコミュニティケアが理解できる。	シーボーム報告以後のコミュニティケア改革を説明できる	江原・学生
8	通年	日本の地域福祉に影響を与えたアメリカのソーシャルワークが理解できる。	コミュニティオガニゼーションの三つのモデルを説明できる	江原・学生

9	通年	地域福祉理論が理解できる。	岡村重夫の地域福祉理論の特徴が説明できる	江原・学生
10	通年	地域の捉え方が理解できる。	地域コミュニティ型組織とアソシエーション型組織の連携の意義を説明できる。	江原・学生
11	通年	地域福祉の主体と福祉教育が理解できる①。	住民の意識と地域福祉の関係が説明できる。	江原・学生
12	通年	地域福祉の主体と福祉教育が理解できる②。	福祉教育の意義が説明できる。	江原・学生
13	通年	社会福祉協議会の歴史的展開を理解できる。	社会福祉法における社会福祉協議会に関する規定を説明できる。	江原・学生
14	通年	特定非営利活動法人の制度と役割が理解できる。	特定非営利活動促進法を説明できる。	江原・学生
15	通年	民生委員・児童委員の制度と役割が理解できる。	民生委員法を説明できる。	江原・学生
16	通年	共同募金の制度と役割が理解できる。	社会福祉法における共同募金に関する規定を説明できる。	江原・学生
17	通年	日常生活自立支援事業の制度と役割が理解できる。	日常生活自立支援事業の制度を説明できる。	江原・学生
18	通年	コミュニティソーシャルワークの考え方が理解できる。	コミュニティワークとの相違を説明できる。	江原・学生
19	通年	コミュニティソーシャルワークの方法が理解できる。	チームアプローチの必要性が説明できる。	江原・学生
20	通年	住民参加と意義が理解できる。	市町村地域福祉計画での住民参加の方法が説明できる。	江原・学生
21	通年	ソーシャルサポートネットワークの必要性と方法が理解できる。	インフォーマルサポートとフォーマルサポートとの関係性を説明できる。	江原・学生
22	通年	社会資源の活用・調整・開発の意義が理解できる。	社会資源開発の方法を説明できる。	江原・学生
23	通年	福祉でまちづくりとソーシャルアクションが理解できる。	福祉でまちづくりの事例を説明できる。	江原・学生
24	通年	地域における福祉ニーズの把握方法と実際が理解できる。	質的な福祉ニーズの把握方法が説明できる。	江原・学生
25	通年	地域包括ケアシステムの構築と実際が理解できる①。	地域包括ケアシステムの必要性を説明できる。	江原・学生
26	通年	地域包括ケアシステムの構築と実際が理解できる②。	地域包括ケアシステムの事例を説明できる。	江原・学生
27	通年	地域における福祉サービスの評価方法と実際が理解できる①。	福祉サービス第三者評価事業や地域密着型サービス外部評価やの仕組みを説明できる。	江原・学生
28	通年	地域における福祉サービスの評価方法と実際が理解できる②。	福祉サービスのプログラム評価の考え方を説明できる。	江原・学生
29	通年	地域福祉の立場からの災害支援の特徴を理解できる。	災害時における地域福祉実践の視点が説明できる。	江原・学生
30	通年	地域福祉の理論と方法が理解できる。	科目試験問題の正答が6割以上わかる	江原
成績評価方法	科目試験 100点			
準備学習など	自分が暮らす市区町村の社会福祉協議会のホームページをみて、社会福祉協議会が、どんな目的のために、どのような組織によって、どのような事業を行っているか学習しておいてください。			
留意事項	「共に学ぶ」・「学び合い」を重視しているため学生の皆さんにも資料を作成して発表していただきます。			

学科・年次	1 学年
科目名	福祉行財政と福祉計画
担当者	市川 季夫
単位数（時間数）	1 単位（30 時間）
学習方法	講義
教科書・参考書	『新・社会福祉士養成講座 10 福祉行財政と福祉計画』第 5 版 社会福祉士養成講座編集委員会（編）中央法規出版

授業概要と目的
<p>社会福祉の制度的な枠組みを福祉行政・財政から学び、実践を福祉計画の視点から理解を深める。</p> <p>福祉行財政は、老人福祉、児童福祉、生活保護制度などサービス給付制度の基盤であることを念頭に入れ、他の科目と関連づけて理解する。福祉計画では、計画の意義とそれぞれの計画の関連を理解する。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	社会福祉制度の展開について理解する。	・戦後社会福祉制度の展開を理解する。	市川
2	後期	福祉計画の概要を理解する。	・社会福祉基礎構造改革と福祉計画の関係を理解する。	市川
3	後期	社会福祉行政と法制度を理解する。	・社会福祉行政の組織を理解する。 ・法令を読むポイント。	市川
4	後期	社会福祉の組織を理解する。	・国と地方の組織の違いを理解する。 ・社会福祉基礎構造改革と福祉サービスの利用方法を理解する。	市川
5	後期	社会福祉の財政を理解する。①	・国の財政の仕組みを理解する。	市川
6	後期	社会福祉の財政を理解する。②	・地方自治体の財政を理解する。 ・福祉サービスの利用と費用負担	市川
7	後期	福祉行政の組織を理解する。①	・社会福祉基礎構造改革と福祉行政組織を理解する。 ・相談体制を理解する。	市川
8	後期	福祉行政の組織を理解する。②	・専門諸機関を理解する。 ・専門職を理解する。	市川

9	後期	福祉計画を理解する。	・福祉計画の目的と意義を理解する。	市川
10	後期	福祉計画の理論を理解する。	・福祉計画の概念を理解する。 ・福祉計画の視点を理解する。	市川
11	後期	福祉計画の技法を理解する。	・福祉ニーズ把握を理解する。 ・福祉計画における住民参加を理解する。	市川
12	後期	福祉計画の実際①	・老人福祉計画を理解する。 ・介護保険事業計画を理解する。	市川
13	後期	福祉計画の実際②	・障害者計画を理解する。 ・障害福祉計画を理解する。	市川
14	後期	福祉計画の実際③	・子ども・子育て支援事業計画を理解する。 ・地域福祉計画を理解する。	市川
15	後期	全体のまとめ	・過去問から学ぶ。 ・テスト	市川
成績評価方法		テストは筆記試験。 成績評価点数は60点以上が合格。		
準備学習など		テキストの他白書など参考とする。 テキストのデータについては、最新のものを授業で配布する。		

学科・年次	社会福祉科（昼間課程）1 学年
科目名	福祉サービスの組織と経営
担当者	江原隆宜
単位数（時間数）	1 単位（30 時間）
学習方法	講義
教科書・参考書	『新・社会福祉養成講座 11 福祉サービスの組織と経営』社会福祉士養成講座編集委員会（編）中央法規出版

<p>授業概要と目的</p> <p>【目標】社会福祉法人の経営のあり方とサービスの質の関係性を理解できる。 講義では、福祉サービスを提供している多様な組織の特徴について理解をすすめ、その中で特に「社会福祉法人」の福祉サービス管理運営方法について検討する。その結果、福祉サービスの質は、社会福祉制度、社会福祉法人の経験・能力・仕組み・価値規範、地域社会との相互関係により異なることが理解できる。</p>
--

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	通年	社会福祉士が福祉サービスの組織と経営を学ぶ意義が理解できる。	福祉サービスの質に影響を与える要素・要件が説明できる。	江原
2	通年	ソーシャルワークの枠組み・視点からの福祉サービスの運営管理が理解できる。	福祉サービスを提供する組織が、利用者の環境であることが説明できる。	江原
3	通年	社会福祉法人の存在意義と自立的・持続的な意思決定の仕組みが理解できる。	社会福祉法人の意思決定の仕組みが説明できる。	江原
4	通年	NPO 法人、医療法人などの存在意義と意思決定の仕組みが理解できる。	NPO 法人の意思決定の仕組みが説明できる。	江原
5	通年	組織が目的を達成できるための戦略と事業計画の意味が理解できる。	法人が戦略をもつ必要性が説明できる。	江原
6	通年	目的達成のための運営管理の基礎理論が理解できる。	PDCA サイクルの使い方が説明できる。	江原
7	通年	目的達成のための集団力学やリーダーシップのあり方が理解できる。	リーダーシップの特性理論と行動理論の違いが説明できる。	江原
8	通年	福祉サービスの特徴とマネジメントの課題が理解できる。	福祉サービスマネジメントの課題が説明できる。	江原
9	通年	第三者評価の目的と方法が理解できる。	第三者評価の仕組みが説明できる。	江原
10	通年	リスクマネジメントの方法が理解できる。苦情解決の仕組みが理解できる。	苦情解決の仕組みが説明できる。	江原
11	通年	人事・労務管理の意義と内容が理解できる。	ハーズバーグの動議付け理論が説明できる。	江原
12	通年	人材育成の意義が理解できる。	OJT、OFF-JT、SDS を説明できる。	江原
13	通年	社会福祉法人の財務諸表が理解できる。	貸借対照表を説明できる。	江原
14	通年	社会福祉法人における情報管理の意義を理解できる。	個人情報保護法の内容が説明できる。	江原
15	通年	福祉サービスの組織と経営が理解できる。	試験問題の正答が 6 割以上わかる。	江原
成績評価方法	100 点（科目試験 100 点）			
準備学習など	授業開始までに「社会福祉法人」に関するイメージをつくってくる。			
留意事項				

学科・年次	社会福祉科昼間課程 1 学年
科目名	社会保障
担当者	水野勝康
単位数（時間数）	2 単位(60 時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	「最新 社会福祉士養成講座 7 社会保障」一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟(編) 中央法規出版

授業概要と目的
<ul style="list-style-type: none"> ・社会保障制度の発展過程・理念・機能・財政構造等を学び、社会保障の全体像を把握することが出来るようになる。 ・社会保険制度を中心に各制度の対象者、財源、給付内容等を具体的に理解し、概要を説明することが出来るようになる。 ・少子高齢化が進む社会情勢を把握するとともに、社会保障制度が直面する諸課題を理解し、社会保障制度のあり方を見通すことができるようになる。 ・公的保険と民間保険の役割と関係について理解し、公私の保障の在り方について考察することができる。 ・諸外国における社会保障制度の概要について理解し、多様な社会保障制度の在り方を認識することができる。 ・講義で得た知識を元にして、具体的な問題に対して一定の結論を導き出せるようになる。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	通年	社会保障の概念、理念、範囲について理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・社会保障の概念、基本的理念を理解する ・社会保障制度の体系と範囲を理解する 	水野勝康
2	通年	現代社会における社会保障の意義と役割について理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・ナショナル・ミニマムについて理解する ・再分配の仕組みと方法について理解する 	水野勝康
3	通年	社会保障の概念と範囲、社会保障の役割と意義、社会保障の理念、社会保障の対象について理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・社会保障の体系について理解する ・社会福祉、社会保険、社会扶助の違いを理解し、説明することができる 	
4	通年	社会保障の歴史を学び、発展過程と方向性について理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・主にヨーロッパにおける社会保障の萌芽期・創設期を背景の社会的状況とともに理解する 	水野勝康

5	通年	社会保障の歴史を学び、発展過程と方向性について理解する	・主に日本における大戦前後の社会保障の流れを把握し、戦後の確立過程を理解する	水野勝康
6	通年	社会保険と社会扶助の構造について理解する	・社会保険制度の特徴と名称を列記することができる ・社会扶助の種類と内容を理解する	水野勝康
7	通年	公的保険と民間保険の関係について理解する	・公的保険と民間保険の仕組みの違いと関係について説明することができる ・企業年金、個人年金の仕組みを理解する	水野勝康
8	通年	公的医療保険制度の沿革と役割について理解する	・公的医療保険制度の発展過程を理解し、全体像を把握する ・公的医療保険の目的と役割を理解する ・国民皆保険の意義について理解する	水野勝康
9	通年	公的医療保険制度の仕組みについて理解する	・被用者医療保険の加入対象者、給付内容、費用負担について理解する ・国民健康保険の加入対象者、給付内容、費用負担について理解する	水野勝康
10	通年	公的医療保険制度の仕組みについて理解する	・高齢者医療制度を体系的に把握する ・前期高齢者医療制度の仕組み、加入対象者、財源構成について理解する ・後期高齢者医療制度の加入対象者と財源構成について理解する	水野勝康
11	通年	介護保険制度の仕組みについて理解する	・介護保険成立の背景を把握する ・介護保険の加入対象者について説明できる	水野勝康
12	通年	介護保険制度の仕組みについて理解する	・介護保険制度の給付内容と費用負担について理解する ・介護保険の財源構成について理解をする	水野勝康
13	通年	公的年金制度の沿革と役割について理解する	・公的年金制度の発展過程を把握し、制度全体の概要を理解する ・国民年金と厚生年金の違いと関連について説明できる	水野勝康
14	通年	公的年金制度の仕組みについて理解する	・国民年金の目的と役割について理解する ・国民年金の加入対象者について理解する	水野勝康

15	通年	公的年金制度の仕組みについて理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎年金の種類、支給要件、給付内容を理解する ・国民年金の負担方法について理解する 	水野勝康
16	通年	公的年金制度の仕組みについて理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・厚生年金の加入対象者について把握する ・厚生年金の種類、支給要件、給付内容について理解する 	水野勝康
17	通年	公的年金制度の仕組みについて理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・厚生年金と基礎年金が同時給付される場合の支給要件と給付内容について理解する 	水野勝康
18	通年	公的年金制度の動向と課題について考察する	<ul style="list-style-type: none"> ・公的年金制度の改革の動向と課題を把握する 	水野勝康
19	通年	労働保険制度の仕組みについて理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・労働保険の発展過程について理解する ・労災保険と雇用保険の役割について理解する 	水野勝康
20	通年	労働保険制度の仕組みについて理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・労災保険の目的と加入対象者について説明できる ・労災保険の給付内容、支給要件、財源について理解する 	水野勝康
21	通年	労働保険制度の仕組みについて理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・雇用保険の給付内容、支給要件、財源について理解する 	水野勝康
22	通年	生活保護制度の仕組みについて理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・生活保護の理念について理解する。 ・生活保護の給付の考え方について、社会保険による給付との違いを理解する。 	水野勝康
23	通年	生活保護制度の仕組みについて理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・生活保護の範囲と給付の仕組みを理解する ・生活保護受給者に自立を促す仕組みについて理解する 	水野勝康

24	通年	社会手当制度について理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・児童に対する手当の仕組みについて理解する。 ・障害者に対する手当の仕組みについて理解する。 	水野勝康
25	通年	社会福祉制度について理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者、子ども、家族、高齢者の各種支援について理解する。 	水野勝康
26	通年	社会保障費用について理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・社会保障の財政について理解する ・社会保障給付費の規模、分配内容、財源構成を理解する 	水野勝康
27	通年	社会保障費用について理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・社会保障費用と国民経済との関連を把握する ・国民負担率、社会保障と経済の問題を理解する 	水野勝康
28	通年	諸外国における社会保障制度を理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・欧米、アジアの主要国における社会保障制度の仕組みと給付内容の概要を理解する 	水野勝康
29	通年	社会保障の国際比較を理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・社会保障の国際比較の中から、その国の課題について理解する 	水野勝康
30	通年	科目終了試験と解説	<ul style="list-style-type: none"> ・科目終了試験の実施 ・試験問題出題趣旨の解説 	水野勝康
成績評価方法		100 点満点（科目試験 100%）		
準備学習など		<p>授業の前後にはテキストに目を通してください。</p> <p>基本的にはテキストをベースとして講義を行います。ただし、発展的な学習のための資料等を適宜配布して解説する場合があります。</p>		
留意事項		<p>社会保障制度は動いています。新聞・テレビ・ネット等報道される関連記事等に目を通し、改定の背景と内容に目を向けるよう心掛けてください。また、将来の方向性は様々な議論の中から生まれてきますので、社会保障に関する各種意見についても目を通しておくことが大切です。</p> <p>休講の可能性があるので、周知には気を付けてください。休講の場合は補講を行います。基本的に休講した場合は講義の回は繰り下げますが、事前に休講がわかっている場合等は繰り上げて補講を実施することがあります。</p>		

学科・年次	社会福祉科（昼間課程） 1 学年
科目名	高齢者に対する支援と介護保険制度
担当者	鈴木 雄太, 伊藤 翔太
単位数（時間数）	2 単位(60 時間)
学習方法	講義とグループワーク
教科書・参考書	○最新・社会福祉士養成講座「高齢者福祉」中央法規出版 ○「令和4年版高齢社会白書」内閣府 ○「令和3年国民生活基礎調査」厚生労働省

授業概要と目的
<p>本科目では、社会福祉士に求められる高齢者福祉に関する基礎的な事柄について総合的に理解するために、高齢者の身体的・精神的・社会的な特性をはじめ、わが国の高齢者を取り巻く社会情勢や要援護高齢者に関する現況、「老人福祉法」、「高齢者の居住の安定確保に関する法律」、「高齢者虐待防止法」等の重要法令、21世紀福祉ビジョン、新ゴールドプラン、介護保険制度等のわが国の高齢者関連施策等について学び、今後の高齢者福祉において求められる社会福祉士の役割等について考察できるようにする。</p> <p>特に、本科目において重要となる介護保険制度については、保険者や被保険者、要介護認定の仕組み、介護予防支援や居宅介護支援の目的や方法、予防給付や介護給付における居宅サービス、施設サービス、地域密着型サービス等の種別や内容、保険料と利用者負担、保険財源等について、細かな事項も含め学習することにより、平成17年の介護保険法改正にともなう介護予防重視型システムへの転換や地域包括ケアシステムの実現を目指した平成23年及び平成26年、平成29年、令和2年、それ以降も続く介護保険法の改正内容について理解を深め、少子高齢社会における介護保険制度のもつ意義や重要性等について認識を深められることを目指す。</p> <p>また、社会福祉士としてソーシャルワークに取り組む際に求められる介護の概念やその対象及び理念ならびに、介護過程における介護の技法や介護予防の基本的な考え方、さらに終末期ケアの在り方（人間観や倫理を含む）について理解する。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	通年	「オリエンテーション」 本科目の授業内容や授業の進め方、科目評価について理解する。	本科目の学び方 ・シラバス、使用テキスト、授業の進め方等について理解する。 ・本科目で学ぶことの全体像や授業の進め方について説明できる。 ・授業に積極的に参加できる。	鈴木
2	通年	「高齢者と少子高齢化（1）」 高齢期の社会的・身体的な特性について理解する。	高齢期の社会的・身体的な特性について学ぶ ・高齢期における社会的特性について説明できる。 ・高齢期の身体的な変化や特性について説明できる。	鈴木
3	通年	介護の概念と範囲について理解する。	・介護の概念を理解する。 ・介護福祉士の役割を理解し、説明できる。	伊藤
4	通年	「高齢者と少子高齢化（2）」 高齢期の精神的・総合的な特性について理解する。	高齢期の精神的・総合的な特性について学ぶ ・高齢期の精神的な変化や特性について説明できる。	鈴木

			・高齢期に起こる総合的な変化や特性について説明できる。	
5	通年	介護予防の基本的な考え方について理解する。	・介護予防の概念を理解する。 ・介護サービスの利用の手続きを体系的に説明できる。	伊藤
6	通年	「高齢者福祉の歴史と理念（１）」 高齢者観の変遷について理解する。	・高齢者像やイメージの変遷を説明できる。 ・高齢者観についての諸概念について説明できる。	鈴木
7	通年	高齢者福祉現場における支援を体験的に理解する（１）	・高齢者福祉現場における実践について理解する。 ・認知症高齢者の支援について、体験的に学び、理解を深める。	ツクイ
8	通年	高齢者福祉現場における支援を体験的に理解する（２）	・高齢者福祉現場における実践について理解する。 ・認知症高齢者の支援について、体験的に学び、理解を深める。	ツクイ
9	通年	介護過程について理解する。	・ケアマネジメント過程を理解する。 ・生活場面での自立支援について説明できる。	伊藤
10	通年	「介護保険制度（１）」 介護保険制度の概要について理解する。	・介護保険制度の枠組みについて説明できる。 ・介護保険制度の仕組みについて説明できる。	鈴木
11	通年	認知症ケアの基本的な考え方について理解する。	・認知症及び症状を理解する。 ・認知症ケアの困難さを理解し、説明することができる。	伊藤
12	通年	「介護保険制度（２）」 要介護認定について理解する。	・要介護認定の仕組みについて説明できる ・要介護認定のプロセスについて説明できる。	鈴木
13	通年	「介護保険制度（３）」 介護保険給付について理解する。	・保険給付について説明できる。 ・介護保険事業計画について説明できる。	鈴木

14	通年	終末期ケアの在り方について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の終末期ケアを理解する。 ・高齢者の終末期ケアの具体的な展開を説明できる。 	伊藤
15	通年	映像資料	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者福祉領域における実践事例から、支援者として必要な資質について理解を深める。 	鈴木
16	通年	「介護保険制度（４）」 地域支援事業について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域支援事業の概要について説明できる。 ・地域支援事業の目的について説明できる。 ・地域支援事業の内容について説明できる。 	鈴木
17	通年	「介護保険制度（５）」 地域包括支援センターについて理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センターの役割について説明できる。 ・地域包括支援センターの体制について説明できる。 ・地域包括支援センターの業務内容について説明できる。 	鈴木
18	通年	※中間まとめと解説	<p>「中間まとめの実施、評価」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中間まとめを通して、前半までの理解度を確認することができる。 	鈴木
19	通年	「介護保険制度（６）」 居宅サービスについて理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・居宅介護サービスの種類について説明できる。 ・居宅介護サービスの内容について説明できる。 	鈴木
20	通年	「介護保険制度（７）」 介護予防サービス、地域密着型サービスについて理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・介護予防サービスの種類、内容について説明できる。 ・地域密着型サービスの種類、内容について説明できる。 	鈴木
21	通年	「介護保険制度（８）」 居宅介護支援、施設サービスについて理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・居宅介護支援の内容について説明できる。 ・施設サービスの種類、内容について説明できる。 	鈴木
22	通年	「高齢者福祉の歴史と理念（２）」 社会福祉発達前史から在宅福祉サービス創設までの過程について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉の発達前史について説明できる。 ・老人福祉法制定までの過程を説明できる。 ・在宅福祉サービス創設の過程を説明できる。 	鈴木

23	通年	「高齢者福祉の歴史と理念（3）」 ・介護保険制度制定までの過程、地域包括ケアシステムの構築について理解する。	・介護保険制度の誕生から地域包括ケアシステムの構築までの過程について説明できる。	鈴木
24	通年	高齢者に対する関連諸制度（1） ・高齢者保健福祉の法体系について理解する。	・高齢社会対策基本法の成立背景について説明できる。 ・高齢社会対策基本法の内容について説明できる。	鈴木
25	通年	高齢者に対する関連諸制度（2） ・老人福祉法、高齢者医療確保法について理解する。	・老人福祉法の内容について説明できる。 ・高齢者医療確保法について説明できる。	鈴木
26	通年	高齢者に対する関連諸制度（3） ・高齢者虐待防止法、バリアフリー法について理解する。	・高齢者虐待防止法の内容について説明できる。 ・バリアフリー法の内容について説明できる。	鈴木
27	通年	高齢者に対する関連諸制度（4） ・高齢者住まい法、高年齢者雇用安定法について理解する。	・高齢者住まい法の内容について説明できる。 ・高年齢者雇用安定法について説明できる。	鈴木
28	通年	高齢者に対する関連諸制度（5） ・育児介護休業法、市町村独自の高齢者支援について理解する。	・育児介護休業法の内容について説明できる。 ・市町村独自の高齢者支援の意義について説明できる。	鈴木
29	通年	「生活実態と社会環境」 ・高齢者の生活実態と社会環境について理解する。	・高齢者の生活実態の諸側面について説明できる。 ・高齢者を取り巻く社会環境について説明できる。	鈴木
30	通年	科目試験と解説	「科目試験の実施、評価」 ・科目試験を通して、高齢者福祉に関して学んだことを確認することができる。	鈴木
成績評価方法		中間まとめ（40点）＋科目試験（60点）＝100点		
準備学習など		受講前に、テキストの次回の講義範囲に目を通しておいください。		
留意事項		特になし		

学科・年次	社会福祉科（昼間課程）1 学年
科目名	障害者に対する支援と障害者自立支援制度
担当者	太田 隆康
単位数（時間数）	1 単位（30 時間）
学習方法	講義
教科書・参考書	※必須とはしない [参考]新・社会福祉士養成講座 14 『障害者に対する支援と自立支援制度』 第 6 版 中央法規出版

授業概要と目的
<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉士として生きづらさを抱えた方への支援技能を身に付けるため、障害者の生活実態や障害者を取り巻く情勢、障害者を支援するための制度について理解する。 ・精神保健福祉士・社会福祉士として現在独立開業しているものが現場経験を活かした指導を行い、障害福祉分野のソーシャルワークへの理解を深める。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	通年	障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢について理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・ I C F 視点で「障害」を理解する ・統計をもとにして、障害者の置かれている現状を理解する 	太田
2	通年	障害者福祉制度の発展過程について理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者福祉制度の発展過程について理解する ・措置制度から契約制度への変化、本人主体のサービス利用を理解する 	太田
3	通年	障害者の権利について考察する	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者の権利に関わる問題について、多面的に考えることができる ・障害者虐待防止法について理解する 	太田
4	通年	障害者総合支援法について理解する①	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者総合支援法に基づく障害福祉サービスの種類を理解する 	太田
5	通年	身体障害者福祉法・知的障害者福祉法・精神保健福祉法について理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の制度について説明できる ・各法律に基づく制度を理解する 	太田
6	通年	障害者の社会参加と、障害者基本法について理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・障害当事者の社会参加と当事者運動の歴史について理解する ・交通バリアフリーの現状と課題を理解する ・歴史と関連付けながら、障害者基本法の変遷を説明することができる 	太田

7	通年	障害者総合支援法について理解する②	<ul style="list-style-type: none"> ・支給決定の仕組みとプロセスについて理解する ・支給決定プロセスにおける相談支援専門員の役割について説明することができる ・相談支援専門員が行うソーシャルワークの視点について理解する ・多職種連携で必要な視点を理解する 	太田
8	通年	障害児に対する支援を理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・障害児に対する福祉サービスの種類、問題を説明することができる ・医療的ケア児が直面する問題について理解する 	太田
9	通年	障害福祉に係る様々な法律を理解する①	<ul style="list-style-type: none"> ・障害当事者の意思決定支援について理解する ・福祉サービスに係る苦情解決の仕組みを理解する ・発達障害者支援を理解する 	太田
10	通年	障害者総合支援法における福祉サービスの現状と専門職の役割について理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・サービス管理責任者の役割について理解する ・サービス管理責任者と相談支援専門員の連携について説明することができる 	太田
11	通年	障害福祉に係る様々な法律を理解する②	<ul style="list-style-type: none"> ・難病患者への支援について説明することができる ・障害者の福祉的就労に関する歴史と課題を理解する 	
12	通年	障害福祉に係る様々な法律を理解する③	<ul style="list-style-type: none"> ・医療観察法について理解する ・触法障害者に関する現状と支援の課題について理解する。 	太田
13	通年	障害者権利条約対日審査で指摘された日本の障害福祉の問題について理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校の現状を理解する。 ・日本における「インクルーシブ教育」と対日審査で指摘された問題点を理解する。 ・ピアサポートワーカーの現状と課題について理解する。 	太田
14	通年	障害を抱えた当事者の体験を聞き、生活のしづらさについて考察する	<ul style="list-style-type: none"> ・障害を抱えた当事者と接することで、障害を抱えた当事者の生活のしづらさを理解する。 ・身体障害者補助犬法に基づく制度を理解する 	太田

15	通年	科目修了試験と解説		太田
成績評価方法		100 点満点（レポート 40%+科目試験 60%）		
準備学習など		特になし		
留意事項		授業に関しては、『障害者に対する支援と自立支援制度』第 6 版をもとに行いますが、授業において教科書は使用しません（プリント配布いたします）。教科書については自主学習教材として活用される場合にご購入ください。		

学科・年次	社会福祉科昼間課程 1学年
科目名	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度
担当者	佐々木将芳
単位数（時間数）	1単位(30時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	新・社会福祉士養成講座 15「児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度」 社会福祉士養成講座編集委員会（編）中央法規出版

授業概要と目的
<p>子ども家庭福祉が対象とする問題には何があるかを理解する。</p> <p>子どもと家庭をめぐる問題に対して、理念や歴史をふまえその法制度の体系を理解する。</p> <p>少子化や児童虐待などの課題および、インクルージョンやダイバーシティといった理念に基づく施策の実施状況や援助実践を理解する</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	現代社会と子ども家庭福祉の関係を理解する	子ども・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢を理解する	佐々木
2	前期	現代社会と子ども家庭福祉の関係を理解する	子ども・家庭の福祉需要とその実際を理解する	佐々木
3	前期	子ども家庭福祉の原理	子どもの定義を理解する 子どもの権利について理解し、説明できる	佐々木
4	前期	児童福祉の発展	子ども・家庭福祉制度の発展過程を理解する 子ども・家庭福祉における重要人物を列挙できる	佐々木
5	前期	子ども家庭福祉の法体系	児童福祉法の概要について理解する 児童福祉法が掲げる理念を説明できる	佐々木
6	前期	子ども家庭福祉の実施体制	国、都道府県、市町村の役割を理解する 家庭裁判所の役割を知る	佐々木
7	前期	子ども家庭福祉の実施体制	民生委員と児童委員の役割を理解する 子ども・家庭福祉制度における公私の役割関係を説明できる	佐々木
8	前期	児童相談所の役割を理解する	児童相談所の組織体系を理解する 児童相談所と市町村の連携を理解する	佐々木

9	前期	相談援助活動において必要となる子ども・家庭福祉制度や子ども・家庭福祉に係る他の法制度について理解する	児童虐待の防止等に関する法律の概要を理解する 児童虐待の背景を理解する 児童虐待の定義を説明できる	佐々木
10	前期	相談援助活動において必要となる子ども・家庭福祉制度や子ども・家庭福祉に係る他の法制度について理解する	社会的養護の体系について理解する 社会的養護の今後の方向性を説明できる	佐々木
11	前期	相談援助活動において必要となる子ども・家庭福祉制度や子ども・家庭福祉に係る他の法制度について理解する	母子並びに父子及び寡婦福祉法の概要を理解する ひとり親家庭への支援の課題を説明できる	佐々木
12	前期	相談援助活動において必要となる子ども・家庭福祉制度や子ども・家庭福祉に係る他の法制度について理解する	母子保健と障害児支援について理解する 保健・医療・福祉・教育の役割について説明できる	佐々木
13	前期	少子化対策と次世代育成支援について理解する	保育・子育て支援制度を理解する 児童健全育成について理解する	佐々木
14	前期	子ども・家庭福祉の専門職	保育士、児童指導員の役割を理解する 家庭支援専門相談員の役割を理解する 上記の専門職の違いと共通点を説明できる	佐々木
15	前期	子ども・家庭福祉制度における多職種連携を理解する	医療関係者との連携を理解する 学校等教育関係者との連携を理解する 労働施策関係者との連携を理解する	佐々木
成績評価方法		100点満点（授業内課題 30%、科目試験 80%）		
準備学習など		できる限り新聞などで子ども家庭福祉に関する情報を収集するようにしましょう。		
留意事項		特になし		

学科・年次	社会福祉科（昼間課程）1 学年
科目名	低所得者に対する支援と生活保護制度
担当者	高山久志
単位数（時間数）	1 単位（30 時間）
学習方法	講義
教科書・参考書	『最新・社会福祉養成講座 貧困に対する支援』日本ソーシャルワーク教育学校連盟（編）中央法規出版

授業概要と目的	
<ul style="list-style-type: none"> ・現代のわが国の公的扶助制度について生活保護制度を中心に体系的に学習し、公的扶助制度の全体像を理解する。 ・低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要とその実際について理解する。 ・相談援助活動において必要となる生活保護制度や生活保護制度に係る他の法制度について理解する。 ・自立支援プログラムの意義とその実際について理解する。 	

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	通年	公的扶助概念と範囲について理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・公的扶助の概念を理解する ・公的扶助と社会保険の違いを説明できる 	高山
2	通年	公的扶助の意義と役割について理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・セーフティネットの機能を説明できる ・ナショナルミニマムの機能を説明できる 	高山
3	通年	生活保護制度仕組みについて理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・生活保護法の目的について理解する ・生活保護の原理・原則について理解する 	高山
4	通年	生活保護制度仕組みについて理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・生活保護の種類と内容について理解する ・生活保護の種類を列記することができる 	高山
5	通年	生活保護制度仕組みについて理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・実施機関と実施体制について理解する ・実施機関と実施体制について説明することができる 	高山
6	通年	生活保護制度仕組みについて理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・生活保護の財源について理解する ・保護施設の種類とその機能について理解する 	高山
7	通年	生活保護制度仕組みについて理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・被保護者の権利について理解する ・被保護者の義務について理解する ・被保護者の権利と義務について説明できる 	高山
8	通年	生活保護制度仕組みについて理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・生活保護制度の不服申立てについて理解する 	高山

			・不服申立制度について説明することができる	
9	通年	生活保護制度仕組みについて理解する	・生活保護制度の決定・実施について理解する ・決定・実施のプロセスについて説明することができる	高山
10	通年	生活保護制度における組織及び団体の役割と実際について理解する	・福祉事務所の役割と実際について理解する ・生活保護制度における専門職の役割と実際について理解する ・他職種連携について理解する	高山
11	通年	低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要とその実際について理解する。	・生活保護の動向を理解する	高山
12	通年	低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要とその実際について理解する。	・生活保護の動向を理解する	高山
13	通年	低所得者対策について理解する	・生活困窮者自立支援法の概要を理解する ・生活福祉資金貸付制度について理解する	高山
14	通年	ホームレス対策について理解する	・ホームレス自立支援法の概要を理解する	高山
15	通年	当該科目の全体を振り返る	・試験と解説を実施する	高山
成績評価方法	100点満点（小テスト20%+科目試験80%）			
準備学習など	特にありませんが、受講後しっかり復習していただければと思います。			
留意事項	特になし			

学科・年次	社会福祉科昼間課程 1学年
科目名	保健医療サービス
担当者	富田 晶子
単位数（時間数）	1単位(30時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	日本ソーシャルワーク教育学校連盟（編）『最新 社会福祉士養成講座 保健医療と福祉』 中央法規出版

授業概要と目的	
<ul style="list-style-type: none"> ・日本の保健・医療にかかわる現状と課題を、国民医療費に関するデータにもとづき把握する ・医療給付の仕組みとして機能する医療保険制度を正しく理解する ・保健医療サービスを提供する機関や専門職の機能を知る ・保健医療サービスの適切かつ効率的な提供を可能にする多職種協働や地域医療連携等の取組を理解する 	

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	「オリエンテーション」 ・科目の概要と授業展開を把握する ・医療ソーシャルワークに関心をもつ	「本科目の学び方（国家試験用・実践用）」 ・科目受講時の記録や配布資料の活用・保管方法を自分で計画することができる ・提示された場面をイメージし、仲間に自分の考えを伝えることができる	富田
2	後期	「国民医療費に関するデータ」 ・国家試験前に、再確認すべきデータをチェックする	「国民医療費に含まれる項目」 ・頻出項目を正しく分類できる 「令和2年度データの特長」 ・試験前にチェックする資料を完成させる	富田
3	後期	「医療保険制度の仕組み」 ・4つの構成要素とそれらの関係性を理解する ・職業と年齢から、おおよその加入している保険を予測できる	「医療保険のステークホルダー」 ・構成要素の具体的な機関名とそれらの間のやりとりを正しく理解できる 「医療保険者の種類の理解」 ・国保、被用者保険、後期高齢者医療制度の対象者を分類できる	富田
4	後期	「保険給付の種類」 ・現物給付、現金給付、還付など給付内容と対象を知る	「保険給付の概要」 ・給付内容を分類し、列記できる 「医療保険の扶養範囲」 ・家系図を用いて、被用者保険の扶養範囲や条件を整理する	富田
5	後期	「医療費助成制度」 ・高額療養費等の助成制度の概要と活用方法を理解する	「高額な医療費に対する助成」 ・自己負担限度額の表を読み取り、助成額が計算できる 「公費負担医療の種類」 ・名称に聴きなれ、特長で分類ができる	富田

6	後期	「診療報酬制度の仕組み」 ・診療報酬の基本（種類、改定プロセス、算定方法）を理解する	「診療報酬の種類と改定の手順」 ・関連する用語を記憶する 「2つの算定方法」 ・出来高払いと包括払いの内容と長所・短所を説明できる	富田
7	後期	「地域医療を促進する診療報酬」 ・入院と外来の診療報酬算定に用いられる用語を確認する ・近年の診療報酬改定のポイントをおさえる	「診療報酬項目の分類名」 ・基本料や加算など頻出用語を理解できる 「診療報酬改定の特長」 ・近年の診療報酬改定にみられる地域医療を促進する項目を確認する	富田
8	後期	「医療機関の機能（医療法）」 ・医療法国家試験頻出条文を読む ・医療法における病床や病院の区分を説明できる	「病院定義・病床区分」 ・5つの病床と6つの病院を説明できる。 「医療計画と病床機能報告制度」 ・条文の内容を正しく理解する 「入退院時の文書交付」 ・似た名前の文書と区別ができる	富田
9	後期	「医療機関の機能（政策・制度）」 ・指定要件や入院要件、算定要件などを、見返した時に視覚的に確認できる一覧を作成する	「政策にもとづく病院機能」 ・5つの病院機能を列記できる ・具体的病院名と関係づけて覚える 「診療報酬にもとづく病床・病棟機能」 ・7つの病院・病棟機能を列記できる	富田
10	後期	「保健医療対策」 ・予防や健康診査など、治療以外の保健医療対策を理解する	「健康日本21（第二次）」 ・計画の概要を知る 「保健所の機能」 ・対人サービスを中心に業務を把握する 「特定健診・特定保健指導」 ・対象者や内容を把握する	富田
11	後期	「医療職の専門性と特性」 ・医療系の多様な医療職の機能と専門性を理解する ・医療分野の基盤となる「患者の権利」と活用される用語の知らなかった部分を確認する	「医療関係の専門職」 ・専門職の機能と養成課程を、テキストを用いて確認する 「医療現場の用いられる用語」 ・患者の権利やカタカナが多い医療用語を事例問題に対応できる程度に理解する	富田
12	後期	「医療ソーシャルワーカーの業務指針」 ・医療ソーシャルワーカーの歴史的人物の国籍と名称がわかる ・業務指針に示された6つの業務範囲を事例問題に適用できる	「医療ソーシャルワークの歴史」 ・イギリス、アメリカ、日本の歴史上の人物名と、その業績を説明できる 「医療ソーシャルワーカーの業務指針」 ・業務を把握する	富田
13	後期	「ソーシャルワーカーに関連する診療報酬制度」 ・社会福祉士・精神保健福祉士の配置や実践が算定要件に示された診療報酬項目の区別ができる	「ソーシャルワーカーに対する診療報酬」 ・退院支援に関する項目を中心に、一覧を作成する 「介護保険の医療連携に対する報酬」 ・介護報酬項目の名称を知る	富田
14	後期	「多職種連携に関連するキーワード」 ・出題の可能性が高いキーワードに関する知識を習得する ・事例問題で出題される場合を想定し、応用方法を含めた知識を修得する	「チーム医療」 ・3つの類型と2つの機能を正しく理解する 「クリティカルパス」 ・クリティカルパスの現物を見て、その機能を理解する 「地域包括ケアシステム」 ・在宅医を支える4つの柱を理解する	富田
15	後期	試験と解説	試験 60分、解説	富田
成績評価方法		試験		
準備学習など		授業前にシラバスを確認して、到達目標を意識して受講をしてください。		
留意事項				

学科・年次	社会福祉科（昼間課程）1 学年
科目名	就労支援サービス
担当者	太田 隆康
単位数（時間数）	1 単位（15 時間）
学習方法	講義
教科書・参考書	※必須とはしない [参考]新・社会福祉士養成講座 18 『就労支援サービス』 第4版 中央法規出版

授業概要と目的
<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉士として生きづらさを抱えた方への支援技能を身に付けるため、就労支援制度や各機関の役割を理解するとともに、就労支援のプロセスを理解します。 ・社会福祉士であり、職場適応援助者としての経験もあるものが現場経験を活かした指導を行い、就労支援分野のソーシャルワークへの理解を深める。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	就労支援と生活支援の意義について理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・働くことの意味と価値を理解する ・ライフスタイルの変化に伴う働き方の変化を理解する 	太田
2	前期	労働市場の動向と生活困窮者支援について理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・日本型雇用慣行の崩壊、非正規雇用の増大といった変遷を説明できる ・生活困窮者に対する就労支援制度を説明できる 	太田
3	前期	生活困窮者支援について理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・生活保護制度における就労支援制度を説明できる ・ホームレス、生活保護受給者に対する支援を説明できる 	太田
4	後期	障害者雇用の現状と障害者雇用施策を理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者の雇用・就労を取り巻く情勢を理解する ・障害者雇用率制度、職業リハビリテーションの実施体制について説明することができる 	太田
5	後期	職業リハビリテーション機関の役割について理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・地域障害者職業センターにおける職業リハビリテーションについて説明できる ・障害者就業・生活支援センターの取り組みを理解する 	太田

6	後期	障害者の就労支援における課題を理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・ディーセントワークの視点を理解する ・就労支援現場で起きている「就労支援の質」に関する問題について説明できる 	太田
7	後期	労働者の権利と合理的配慮の視点について理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・労働法に基づく権利と社会保障について説明することができる ・障害者の権利について理解し、障害者差別解消法・障害者雇用促進法における合理的配慮について説明できる 	太田
8	後期	科目修了試験と解説		太田
成績評価方法		100 点満点（科目試験 100%）		
準備学習など		特になし		
留意事項		授業に関しては、『就労支援サービス』第 4 版をもとに行いますが、授業において教科書は使用しません（プリント配布いたします）。教科書については自主学習教材として活用される場合にご購入ください。		

学科・年次	社会福祉科昼間課程 1学年
科目名	権利擁護と成年後見制度
担当者	市川 知律
単位数（時間数）	1単位(30時間)
学習方法	講義及び演習
教科書・参考書	教科書は中央法規出版の新社会福祉士養成講座第19巻「権利擁護と成年後見」使用。 その他、講師の指定する資料を内容に応じて配布する。

授業概要と目的
<p>成年後見制度の内容や、その課題から社会福祉の中における権利擁護について学ぶ。そして権利侵害を受けやすい人々にどのようにかかわっていくには、どのような法律知識が必要か、他の専門職と協働する上でどのような根拠をもってアドボケートできるようになるべきかを理解し、社会福祉士として担うべき権利擁護全般に関する知識を身につける。なお、社会福祉士として、福祉事業所等で現場経験のあるものが、その経験を活かし講義を行う。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	通年	日本国憲法と社会福祉における権利擁護の全体	憲法における権利擁護と保証されるべき人権や自由、幸福追求権について理解する。	市川
2	通年	行政法の基本	行政行為と行政事件訴訟、国家賠償法を理解する。	市川
3	通年	民法の基本 1	民法の構成と法の特性、総則、物件、債権契約等を理解する。	市川
4	通年	民法の基本 2	家族法（親族、相続）について理解するとともに事例を通じてその実務を理解する。	市川
5	通年	社会福祉の援助に必要な関連法	消費者被害や債務整理など、相談援助の場面で必要となる知識を理解する。	市川
6	通年	成年後見制度と任意後見制度の理解	任意後見と法定後見の差異、任意後見の契約と委任代理事務契約等について理解する。	市川
7	通年	法定後見制度の理解 1	成年後見、保佐、補助および申し立ての手順と報告書の策定手順を理解する。	市川
8	通年	法定後見制度の理解 2	模擬事例を用い、申立と定期報告を体験することにより後見人としての実務を体験的に理解する。	市川

9	通年	日常生活自立支援事業の理解	日常生活自立支援事業の利用方法や利用要件、現状の課題や利点を理解する。	市川
10	通年	成年後見制度以外の権利擁護制度の理解	権利条約、意思決定支援、高齢者虐待防止法、障害者虐待防止法について理解する。	市川
11	通年	成年後見制度使用支援事業と成年後見制度利用促進法	自治体における成年後見制度利用支援事業の利便性と改善点、成年後見制度利用促進法と成年後見制度利用促進計画、中核機関について理解する。	市川
12	通年	成年後見制度に係わる機関や団体	家庭裁判所、社会福祉協議会、当事者団体など後見制度に携わる機関を理解する。	市川
13	通年	成年後見制度の担い手	社会福祉士、弁護士、司法書士など成年後見人およびその他の第3者後見人や法人後見などの担い手の特性や専門分野を理解する。	市川
14	通年	事例検討	講師の実践に基づいて、実際の後見員としての活動を知るとともに、困難な事案への対応方法を実践を通じて学ぶ。	市川
15	通年	試験と解説	権利擁護と成年後見制度の理解についての理解度を問う。	市川
成績評価方法		100点満点（科目試験 80%＋授業態度 20%）。		
準備学習など		法律用語辞典を事前購入しておくことが望ましい。		
留意事項		特になし		

学科・年次	社会福祉科（昼間課程）1 学年
科目名	更生保護制度
担当者	長友幸一
単位数（時間数）	1 単位（15 時間）
学習方法	講義
教科書・参考書	『新・社会福祉士養成講座 20 更生保護制度 第 4 版』 社会福祉士養成講座編集委員会（編集）中央法規

授業概要と目的	
<ul style="list-style-type: none"> ・現在のわが国の更生保護制度について保護観察の実際を中心に体系的に学習し、社会内処遇の全体像を理解する。 ・非行のあった少年への保護処分の実際について学習し、明日を拓く少年が抱える問題と成長について理解する。 ・医療観察制度における処遇の流れを学習し、地域における精神保健医療の確保のあり方について理解する。 ・保護司に代表されるボランティアの実情について学び、犯罪をした人と地域社会の関わりについて理解する。 	

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	更生保護制度の概要について理解する	・刑事司法の流れを理解する ・社会内処遇と施設内処遇を理解する	長友
2	後期	保護観察について理解する	・保護観察の種類・期間・措置等を理解する	長友
3	後期	保護観察の運用について理解する	・遵守事項について理解する ・良好措置・不良措置について理解する	長友
4	後期	仮釈放等について理解する 少年法について理解する	・仮釈放等の種類について理解する ・保護処分の実際について理解する	長友
5	後期	更生緊急保護について理解する	・満期釈放者等に対する更生緊急保護の措置について理解する	長友
6	後期	保護司制度・更生保護施設について理解する	・保護司について理解する ・更生保護施設について理解する	長友
7	後期	医療観察制度の概要について理解する	・医療観察について理解する ・精神保健観察について理解する	長友
8	後期	関係機関団体との連携について理解する 科目試験	・関係する公的組織及び民間団体との連携 協調について理解する	長友
成績評価方法		100 点満点（科目試験 100%）		

準備学習など	特になし
留意事項	少年法の改正等法令の改廃について配慮する

学科・年次	社会福祉科（昼間課程）1 学年
科目名	相談援助演習
担当者	高山久志 成田暢代 鈴木雄太 檜垣道隆
単位数（時間数）	5 単位（150 時間）
学習方法	演習 講義 フィールドワーク
教科書・参考書	ソーシャルワーカーの倫理綱領[配布] また、講義時に適宜紹介する

授業概要と目的
<p>前半(実習前)は、相談援助実習に臨む前段階に理解すべき価値・倫理など、対人援助専門職(ソーシャルワーカー)としての基盤づくりを目的とする。</p> <p>主に、①自己覚知と他者理解(自分への気づきと他者のちがいの認識)、②コミュニケーション(他者との関わりと面接技法)、③ソーシャルワークの基本的展開過程(情報収集と記録の技法、アセスメント・プランニング等)、④相談援助現場の実際の理解(フィールドワーク等)を中心に、各教員の実務経験(高齢、病院、障害児・者等)を踏まえながら、体験的な学びを展開していく。</p> <p>いずれの場面でも主体的に参加することで体感し、それを言語化および他者と共有することによって、ソーシャルワークの基本的能力を習得していくことを期待している。</p> <p>後半(実習後)には、相談援助実習および実務経験上での相談援助に係る知識と技術について、個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得していくことを目的とする。</p> <p>①利用者の思いやニーズを理解する、②社会福祉施設の役割やあり方を理解する、③ソーシャルワーク援助技術の多様な事例を理解する、④多層的なソーシャルワーク視点を理解する、</p> <p>これらを展開するなかで、相談援助実習や実務経験上の体験を言語化し、他者と共有することによって、ソーシャルワークを多面的、重層的に捉えて、より実践的な能力を習得していくことを期待している。</p> <p>なお、社会福祉士として、福祉事業所等で現場経験のあるものが、その経験を活かし講義を行う。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
前期 <実習前>				
1	前期	「SW の基盤づくり」 ・相談援助演習科目の概要と目的を知る。 【講義】	「演習オリエンテーション」 ・相談援助演習科目で今後行う学習についてイメージし、記述できる。 <<感想用紙にて確認>>	高山、成田、鈴木、檜垣

2	前期	<p>「自己覚知と他者理解」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験的に自己理解を深める。 ・他者の声に耳を傾け、理解する。 <p>【演習】</p>	<p>「自己理解～自分の表現」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己理解をもとに自分を表現し、意図を他者に説明できる。 <p>《発表にて確認》</p>	高山、成田、鈴木、檜垣
3	前期	<p>「自己覚知と他者理解」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己覚知の意味と必要性を理解する。 <p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験的に自己理解を深める。 ・他者の声に耳を傾け、理解する。 <p>【演習】</p>	<p>「自己覚知の理解」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己覚知の必要性について記述できる。 <p>「自己理解～自分のお気に入り」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己理解を深めて意識化し、意図を他者に伝えることができる。 ・他者の表現を肯定的に受け止め、関係形成への一歩とすることができる。 <p>《感想用紙にて確認》</p>	高山、成田、鈴木、檜垣
4	前期	<p>「SWの基盤づくり」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉士に必要な技術と知識および国家試験の概要について知る。 <p>【講義】</p>	<p>「社会福祉士資格と国家試験」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉士資格要件科目および国家試験の概要、今後の学習イメージについて説明できる。 	高山、成田、鈴木、檜垣
5～6	前期	<p>「自己覚知と他者理解」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験的に自己覚知を深める。 ・自他の価値観の違いを認識する。 <p>【演習】</p>	<p>「価値観の違いの理解①②」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のものの見方や価値観を意識化し、その傾向を述べることができる。 ・自他の違いを認識し、他者の価値観も肯定することができる。 <p>《感想用紙にて確認》</p>	高山、成田、鈴木、檜垣
7	前期	<p>「SWの基盤づくり」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リモート活用の実際や、そのコミュニケーションについて理解する。 <p>【演習】</p>	<p>「リモート体験」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リモート機器を活用して、コミュニケーションを図ることができる。 	高山、成田、鈴木、檜垣
8	前期	<p>「専門職倫理」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SWの価値・倫理について理解する。 <p>【演習】</p>	<p>「SWの価値・倫理の理解①」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SWが専門職たる意義について説明できる。 <p>《感想用紙にて確認》</p>	高山、成田、鈴木、檜垣
9～10	前期	<p>「自己覚知と他者理解」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験的に自己覚知を深める。 ・自他の価値観の違いを認識する。 <p>【演習】</p>	<p>「価値観の違いの理解③④⑤」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のものの見方や価値観を意識化し、その傾向を述べることができる。 ・自他の違いを認識し、他者の価値観も肯定することができる。 <p>《感想用紙にて確認》</p>	高山、成田、鈴木、檜垣
11	前期	<p>「自己覚知と他者理解」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験的に自己覚知を深める。 ・ストレングス視点を理解する。 <p>【演習】</p>	<p>「ストレングス視点の理解①～リフレーミング」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートにて、リフレーミングできる。 <p>《ワークシートにて確認》</p>	高山、成田、鈴木、檜垣

12	前期	「SWに必要な基礎知識」 ・“支援”の考え方の柔軟性について柔軟に理解する。 【講義・演習】	「支援の多様性への気付き」 ・支援の多様性を意識し、イメージすることができる。 《感想用紙にて確認》	高山、成田、鈴木、檜垣
13～16	前期	「実践に触れる」 ・実践現場(社会福祉法人)を体感する。 ・法人組織(メゾレベル)の実際を知る。 【フィールドワーク】	「フィールドワーク①～社会福祉法人」 ・社会福祉法人を組織として見学し、感じた感覚や触れた想いについて記述できる。 《感想用紙にて確認》	高山、成田、鈴木、檜垣
17	前期	「SWとコミュニケーション」 ・SWにおけるコミュニケーションとは何かを理解する。 ・コミュニケーションに関する自己覚知を深める。 【講義・演習】	「SWにおけるコミュニケーション①」 ・SWにおけるコミュニケーションとは何かについて、自分なりに記載することができる。 ・自分のコミュニケーションの傾向を自覚し、記述できる。 《ワークシート・発表にて確認》	高山、成田、鈴木、檜垣
18	前期	「SWとコミュニケーション」 ・“きく”ことについて理解する。 【講義・演習】	「SWにおけるコミュニケーション②」 ・きく姿勢、態度に関するポイントを自覚し、体験できる。 《ワークシート・発表にて確認》	高山、成田、鈴木、檜垣
19	前期	「SWとコミュニケーション」 ・傾聴とは何かを理解する。 【講義・演習・映像教材】	「SWにおけるコミュニケーション③」 ・傾聴に必要なポイントを自覚し、記述できる。 《ワークシート・発表にて確認》	高山、成田、鈴木、檜垣
20	前期	「SWとコミュニケーション」 ・重度障害者のコミュニケーションについて理解を深める。 【演習】	「SWにおけるコミュニケーション④」 ・重度障害者とのコミュニケーションについてイメージできる。 《感想用紙にて確認》	高山、成田、鈴木、檜垣
21～24	前期	「実践に触れる」 ・地域社会資源について理解する。 【フィールドワーク】	「フィールドワーク②～地域社会資源調査」 ・社会資源について調査し、報告書にまとめることができる。 《報告書にて確認》	高山、成田、鈴木、檜垣
25～26	前期	「SWとコミュニケーション」 ・SWにおけるコミュニケーションとは何かを理解する。 ・コミュニケーションの材料として、高齢者が生きてきた時代を知る。 【講義・演習】	「SWにおけるコミュニケーション④⑤」 ・高齢者介護におけるリアルな視点を知る。 ・高齢者が生きてきた時代背景を理解し、グループで共有することができる。 《ワークシート・発表にて確認》	高山、成田、鈴木、檜垣

27	前期	「自己覚知と他者理解」 ・自己承認と自分自身のストレング スに気付く。 【講義・演習】	「ストレングス視点の理解②～自己承認・自分 自身のストレングスの気付き」 ・自分自身のストレングスに気付き、自己承認す ることができる。 《感想用紙にて確認》	高山、成田、鈴 木、檜垣
28	前期	「SWの基盤づくり」 ・レクリエーション体験。 【演習】	「利用者視点で理解するレクリエーション体 験」 ・レクリエーション体験を通して、利用者視点を 理解する。 《感想用紙にて確認》	高山、成田、鈴 木、檜垣
29	前期	「SWの基盤づくり」 ・ライフストーリーについて理解す る。 【講義・演習】	「ライフストーリーとSW」 ・ライフストーリーについてイメージできる。 《感想用紙にて確認》	高山、成田、鈴 木、檜垣
30	前期	「自己覚知と他者理解」 ・体験的に自己覚知を深める。 ・ストレングス視点を理解する。 【演習】	「ストレングス視点の理解③～他者紹介」 ・ストレングス視点にて他者紹介をすることが できる。 《ワークシート・発表にて確認》	高山、成田、鈴 木、檜垣
31～32 37～38	前期	「SWの基盤づくり」 ・SWマインドの継続的な涵養につい て理解する。 ・自己覚知を深め、それを表現する。 【演習】	「SWマインドの涵養①」 ・自分を形成してきたものを振り返り、自分の言 葉で表現することができる。 ・SWマインドとは何か理解して、記述できる。 《発表にて確認》	高山、成田、鈴 木、檜垣
33～34	前期	「SWに必要な基礎知識」 ・障害特性について理解する。 【講義】	「障害特性の理解」 ・障害福祉サービス事業所における利用者をイ メージでき、障害名および障害特性を説明する ことができる。 《感想用紙にて確認》	高山、成田、鈴 木、檜垣
35～36	前期	「SWの展開」 ・インテーク、アセスメントについて 理解する。 【講義・演習】	「SWにおけるアセスメント・プランニング①」 ・SWの展開について説明できる。 ・アセスメントの概要について記述できる。 《ワークシート・感想用紙にて確認》	高山、成田、鈴 木、檜垣
39	前期	「SWの展開」 ・プランニングについて理解する。 【講義・演習】	「SWにおけるアセスメント・プランニング②」 ・SWの展開について説明できる。 ・プランニング(個別支援計画)について記述で きる。 《ワークシート・感想用紙にて確認》	高山、成田、鈴 木、檜垣

40～42	前期	<p>「SWの展開」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報収集の方法、記録の方法について理解する。 <p>【演習】</p>	<p>「情報収集と記録の方法」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報収集および記録の方法について説明できる。 ・実習時に必要な記録と関連させて説明できる。 <p>《ワークシートにて確認》</p>	高山、成田、鈴木、檜垣
43	前期	<p>「SWの基盤づくり」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談援助場面を想定したロールプレイを通して、SWの方法を具体的に理解する。 <p>【演習】</p>	<p>「相談援助場面考察」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロールプレイを通して、実践的に場面でのふるまいを体現できる。 <p>《感想用紙にて確認》</p>	高山、成田、鈴木、檜垣
44	通年	<p>「社会福祉士実践の実際・事例」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画運営におけるアセスメントとプランニングの実践を理解する。 <p>【演習】</p>	<p>「交流会の企画運営」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画運営に携わる一員として参加、アイデアの表出、協働ができる。 <p>《GW・感想用紙にて確認》</p>	高山、成田、鈴木、檜垣
45	前期	<p>「社会福祉士実践の実際・事例」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はじめて身を置くSW実践(実習)での意識や注意点について理解する。 <p>【演習】</p>	<p>「実践(実習)における注意点」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践的に意識すべきことについて説明できる。 <p>《感想用紙にて確認》</p>	高山、成田、鈴木、檜垣
46	前期	<p>「SWの基盤づくり」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談援助場面を想定したロールプレイを通して、SWの方法を具体的に理解する。 <p>【演習】</p>	<p>「相談援助場面考察～不安と期待」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロールプレイを通して、実践的に場面でのふるまいを体現できる。 <p>《感想用紙にて確認》</p>	高山、成田、鈴木、檜垣
47～48	通年	<p>「実践に触れる」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲスト講師の話からSW実践の一例を理解する。 ・実践の実際を知り、自分自身の社会福祉士像の形成につなげる。 <p>【ゲスト】</p>	<p>「ゲスト講義」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲストの話聴き、自分自身について検討、イメージ化できる。 <p>《感想用紙にて確認》</p>	高山、成田、鈴木、檜垣
49	前期	<p>「SWの基盤づくり」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SW実践におけるキーワードについて再認識、理解する。 <p>【演習】</p>	<p>「実践キーワードの理解」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践で活用するキーワードの意味や意図を再認識し、それぞれについて説明できる。 <p>《感想用紙にて確認》</p>	高山、成田、鈴木、檜垣
50	前期	<p>「SWの基盤づくり」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習で学ぶべきことを理解する。 <p>【演習】</p>	<p>「実習意気込み発表会」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習で学びたいことを表明できる。 ・他者の狙いから、自分自身のイメージも深め、それを記述できる。 <p>《発表、感想用紙にて確認》</p>	高山、成田、鈴木、檜垣

後期 《実習後》				
51～53	後期	<p>「SW 実践の実際・事例」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談援助実習や実践経験における利用者、職員の想いを振り返り整理する。 ・自他の経験を通して、社会福祉現場の多様な実状を知り、理解する。 <p>【演習】</p>	<p>「社会福祉現場の実状と利用者・職員理解」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己の得た体験にもとづく「現場の声」を整理し、他者に説明できる。 ・他者の経験を通して知った「現場の声」を、種別や SW の課題として整理・認識し、記述できる。 <p>《感想用紙にて確認》</p>	高山、成田、鈴木、檜垣
54	後期	<p>「SW の基盤づくり」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉士に必要な技術と知識および国家試験の学習概要について知る。 <p>【講義】</p>	<p>「国家試験とセルフマネジメント・プランニング」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国家試験学習の概要をイメージし、今後の学習計画およびそれに沿ったセルフマネジメント、プランニングの重要性について説明できる。 	高山、成田、鈴木、檜垣
55	後期	<p>「SW 実践の実際・事例～社会福祉現場で用いられている SW 援助技術事例」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SW におけるインテーク、信頼関係の形成について理解する。 <p>【演習】</p>	<p>「インテーク」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マイクロレベルでのアプローチ(特にインテーク、信頼関係)について、自己の経験や周囲から得たアドバイスを説明できる。 <p>《感想用紙にて確認》</p>	高山、成田、鈴木、檜垣
56	後期	<p>「SW 実践の実際・事例～社会福祉現場で用いられている SW 援助技術事例」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SW におけるアセスメントおよびプランニングについて理解する。 <p>【演習】</p>	<p>「アセスメント、プランニング、モニタリング」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マイクロレベルでのアプローチ(特にアセスメントおよびプランニング)について、自己の経験や周囲から得たアドバイスを説明できる。 ・他者の経験を通して知ったプランニングについての実際を、種別や SW の共通性として整理・認識し、記述できる。 <p>《感想用紙にて確認》</p>	高山、成田、鈴木、檜垣
57	後期	<p>「SW 実践の実際・事例～社会福祉現場で用いられている SW 援助技術事例」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SW におけるチームアプローチおよび連携(グループ、組織内、法人内)について理解する。 <p>【演習】</p>	<p>「チームアプローチ、連携(グループ、組織内、法人内)」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チームや組織レベルの支援の実際について、自己の経験や周囲から得たアドバイスを説明できる。 ・他者の経験を通して知ったチームアプローチについての実際を、種別や SW の共通性として整理・認識し、記述できる。 <p>「ネットワーキング(組織間、地域、多職種)」</p>	高山、成田、鈴木、檜垣

			<ul style="list-style-type: none"> ・組織、地域、職種間での支援の実際やその形成方法について、自己の経験や周囲から得たアドバイスを説明できる。 ・他者の経験を通して知ったネットワーキングについての実際を、種別や SW の共通性として整理・認識し、記述できる。 <p>《感想用紙にて確認》</p>	
58	後期	<p>「SW 実践の実際・事例～社会福祉現場で用いられている SW 援助技術事例」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SW におけるアウトリーチについて理解する。 ・利用者ニーズ(思い)と社会資源との関係について理解する。 ・アウトリーチのあり方、具体的取り組みについて理解する。 <p>【演習】</p>	<p>「アウトリーチとニーズ把握」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニーズと資源の関係性および社会資源の役割を説明できる。 ・アウトリーチのあり方、具体的取り組みについて説明できる。 <p>《感想用紙にて確認》</p>	高山、成田、鈴木、檜垣
59～61	後期	<p>「社会福祉現場と地域福祉」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会資源の調整、開発について理解する。 <p>【演習】</p>	<p>「社会資源の調整と開発」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者ニーズー地域ー社会資源の関連を意識して、新たな社会資源の開発について検討できる。 ・多角的な視点からアイデアを他者と共有し、グループワークをすすめることができる。 <p>《感想用紙にて確認》</p>	高山、成田、鈴木、檜垣
62	後期	<p>「社会福祉士実践の実際」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画運営におけるアセスメントとプランニングの実践を理解する。 <p>【演習】</p>	<p>「交流会の企画運営」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画運営に携わる一員として参加、アイデアの表出、協働ができる。 <p>《GW・感想用紙にて確認》</p>	高山、成田、鈴木、檜垣
63～64	後期	<p>「社会福祉現場と地域福祉」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会資源の開発について理解する。 <p>【演習】</p>	<p>「社会資源の開発」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループワークで構築したアイデアを発表することができる。 ・自他の発表から社会資源開発について SW の共通性として整理・認識し、記述できる。 <p>《発表・感想用紙にて確認》</p>	高山、成田、鈴木、檜垣
65	後期	<p>「SW の基盤づくり」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉士に必要な技術と知識および国家試験の学習概要についてグループで検討する。 <p>【演習】</p>	<p>「学習の工夫とセルフマネジメント」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国家試験学習の工夫について共有し、今後の学習計画およびそれに沿ったセルフマネジメントに活かしていく。 	高山、成田、鈴木、檜垣

66 72	後期	<p>「実践に触れる」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲスト講師の話から SW 実践の一例を理解する。 ・実践の実際を知り、自分自身の社会福祉士像の形成につなげる。 <p>【ゲスト】</p>	<p>「ゲスト講義」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲストの話を聴き、自分自身について検討、イメージ化できる。 <p>《感想用紙にて確認》</p>	高山、成田、鈴木、檜垣
67～71	後期	<p>「社会福祉士実践の実際」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画運営におけるアセスメントとプランニングの実践を理解する。 ・実践の実際を知り、自分自身の社会福祉士像の形成につなげる。 <p>【演習】</p>	<p>「交流会の企画運営」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画運営に携わる一員として参加、アイデアの表出、協働ができる。 ・学生時代の学び、実践経験についての語りを受け、自分自身について検討、イメージ化できる。 <p>⇒社会福祉士へ至る道筋、社会福祉士像について明記できる。</p> <p>《GW・感想用紙にて確認》</p>	高山、成田、鈴木、檜垣
73～75	後期	<p>「専門職倫理」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SW の専門職倫理について理解する。 ・SW マインドの継続的な涵養について理解する。 ・レポート作成を通して、自分の今後へ活かすイメージを持つ。 <p>【演習・レポート作成】</p>	<p>「SW の価値・倫理の理解②」</p> <p>「SW マインドの涵養③」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・めざす SW 像に向けた道筋について具体的にイメージし、自分の言葉で思いを記述することができる。 <p>《GW・レポート提出にて確認》</p>	高山、成田、鈴木、檜垣
成績評価方法		<ul style="list-style-type: none"> ・演習への参加態度（出席、グループワーク・発表など） ・感想用紙やレポート等の提出物の有無および記載内容 <p>これらを踏まえて総合的に評価する。</p>		
準備学習など		<ul style="list-style-type: none"> ・適宜、社会福祉士の倫理綱領に目を通し、ソーシャルワーカーに必要な価値観、考え方を意識するようにしてください。 ・ソーシャルワークを行ううえでは、福祉分野のみならず、社会情勢や政治、経済、地域のニュースなど、あらゆる動向について<u>多面的な視点で認識していく姿勢</u>が求められます。普段の生活のなかでも常にアンテナを張り、<u>一元的な視点に終始しないよう意識して物事を見るよう</u>にしてください。 		

学科・年次	社会福祉科（昼間課程）1 学年
科目名	相談援助実習指導
担当者	成田暢代 高山久志 鈴木雄太 檜垣道隆
単位数（時間数）	3 単位（90 時間）
学習方法	講義 演習 フィールドワーク 個別指導
教科書・参考書	※必須とはしない [参考]『ソーシャルワークを学ぶ人のための相談援助実習』中央法規出版 『ソーシャルワーカーの倫理綱領』および講義時に適宜紹介する

授業概要と目的
<p>実習指導は、実習前、実習中、実習後に大別されます。</p> <p>実習前は講義形式で実習の意義や目的を確認し、実習先の決定を行います。その後、実習計画書の作成を個別に指導します。実習中は、帰校指導や巡回による指導を行い、実習後には実習報告書の作成を個別に指導し、全体の報告会を行います。な</p> <p>お、社会福祉士として、福祉事業所等で現場経験のあるものが、その経験を活かし講義を行う。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1～2	通年	「相談援助実習の概要把握」 ・相談援助実習科目の目的と概要を理解する。 【講義】	「実習オリエンテーション」 ・相談援助実習科目のスケジュールを把握するとともに、実習先選択のイメージを持ち、説明することができる。 《感想用紙にて確認》	成田 高山 鈴木 檜垣
3	通年	「実習ガイダンス～報告会より」 ・卒業生の話聞き、相談援助実習についてのイメージを深める。 【講義】	「実習についてイメージを深める」 ・実習経験者の話を聞き、実習に向けた自分の思いや想定に引き寄せて感想を記載することができる。 《感想用紙にて確認》	成田 高山 鈴木 檜垣
4～7 9～12	通年	「実践現場を知る」 ・一日体験実習に臨み、施設利用者/職員の様子や施設の役割について理解する。 【フィールドワーク】	「一日体験実習(障害・高齢)」 ・実践に身を置くことで知った情報、得られた感覚について、報告書に記載することができる。 《一日現場体験実習報告書(様式⑧)にて確認》	成田 高山 檜垣
8	通年	「実習ガイダンス～相談会」 ・実習の自己イメージを整理し、他者と共有しつつ深める。 【演習】	「実習についてイメージを深める」 ・実習に向けた自分の思いを他者に表現することができる。	成田 高山 鈴木 檜垣

			<ul style="list-style-type: none"> ・他者の実習への思いを知り、イメージを深めることができる。 <p>《感想用紙にて確認》</p>	
13	通年	<p>「事前学習と記録」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習の目的、意義、学びたいことを明確化する。 ・実習計画書の概要、書き方、事前学習、実習記録の記載について理解する。 <p>【講義】</p>	<p>「実習計画書/記録の書き方」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習計画書の書き方を知り、実際に作成をスタートさせることができる。 <p>《実習計画原案にて確認》</p>	成田 高山 鈴木 檜垣
14～17	通年	<p>「実践現場を知る」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談援助実習を行う施設にてプレ実習を行い、利用者/職員の概要や施設の役割を理解する。 <p>【フィールドワーク】</p>	<p>「プレ実習」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習先施設の概要(利用者、職員、施設)を把握するとともに、実習までに必要な知識や学習すべきポイントを把握し、説明できる。 <p>《プレ実習報告書にて確認》</p>	成田 高山 鈴木 檜垣
18～19 20～23	通年	<p>「事前学習と実習準備」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習計画書の作成や事前学習について、教員の個別指導を受けながら完成させる。また、事前訪問も実施する。 <p>【個別指導】</p>	<p>「実習計画書/事前学習の完成」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・随時、教員の個別指導を受け、実習計画書、事前学習の完成、事前訪問の準備および実施を遂行させることができる。 <p>《実習計画書/事前学習の適宜提出、事前訪問報告書にて確認》</p>	成田 高山 鈴木 檜垣
24～25	通年	<p>「事中学習」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習期間中に学校へ登校し、実習状況や学びについて他実習生や教員へ共有し、理解を深める。 <p>【演習】</p>	<p>「実習帰校指導」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習状況について、他実習生や教員に状況を説明することができる。 ・他実習生や教員の助言を受けて、翌日以降の実習に反映させることができる。 <p>《感想用紙、実習日誌にて確認》</p>	成田 高山 鈴木 檜垣
26～27	通年	<p>「事中学習」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習期間中に実習施設において、教員が学生に実習に関する個別指導を行う。 <p>【個別指導】</p>	<p>「実習巡回指導《2回》」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習自己評価票、実習日誌等をもとに、相談援助実習の状況を教員に説明することができる。 ・教員の助言を受けて、翌日以降の実習に反映させることができる。 <p>《実習日誌、実習自己評価票にて確認》</p>	成田 高山 鈴木 檜垣
28～29	通年	<p>「事中学習」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習期間中に学校へ登校し、実習状況や学びについて他実習生や教員へ共有し、理解を深める。 <p>【演習】</p>	<p>「実習帰校指導」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習状況について、他実習生や教員に状況を説明することができる。 ・他実習生や教員の助言を受けて、翌日以降の実習に反映させることができる。 	成田 高山 鈴木 檜垣

			《感想用紙、実習日誌にて確認》	
30～31 32～35	通年	「事後学習」 ・相談援助実習で得られた経験について、種別や相談援助としての学びとして般化、深化させて理解することができる。 【個別指導】	「実習報告書/事後学習の完成」 ・随時、教員の個別指導を受け、実習報告書、事後学習関係書類を完成させることができる。 《実習報告書/事後学習関係書類の適宜提出》	成田 高山 鈴木 檜垣
36～41	通年	「事後学習」 ・相談援助実習で得られた学びを他実習生に報告するとともに、他実習生の報告からさらに理解を深める。 【演習】	「実習報告会」 ・自分自身の学びを実習報告会にて他実習生に報告することができる。 ・他実習生の報告から、相談援助の在り方について学びを深めることができる。 《感想用紙にて確認》	成田 高山 鈴木 檜垣
41～45	通年	「実践現場を知る」 ・自分の関心のある分野の施設にて、一日実習を行い、理解を深める。 【フィールドワーク】	「自主見学実習」 ・自分自身の関心のもと、施設に依頼等を行い、一日実習を行い、学びを深めることができる。 《自主見学実習計画書/報告書にて確認》	成田 高山 鈴木 檜垣
成績評価方法		<ul style="list-style-type: none"> 各計画書/報告書、提出書類の提出状況と内容 相談援助実習の実施状況および内容 これらを踏まえて総合的に評価する。		
準備学習など		<ul style="list-style-type: none"> 実習施設で見聞きした自己の体験がすべてではありません。ひとつのミクロ的経験、体験を通じて、それが「他施設ではどうなのか」、「種別としてはどうなのか」、「相談援助としてどうなのか」、というように、メゾ、マクロまで引き上げたり、またミクロに戻して捉えたり、多層性や横断性を意識しながら考えることが大切です。 		

学科・年次	社会福祉科（昼間課程）1 学年
科目名	相談援助実習
担当者	成田暢代 高山久志 檜垣道隆 鈴木雄太
単位数（時間数）	4 単位（180 時間）
学習方法	講義 演習 フィールドワーク 個別指導
教科書・参考書	※必須とはしない [参考]『ソーシャルワークを学ぶ人のための相談援助実習』中央法規出版 『ソーシャルワーカーの倫理綱領』および講義時に適宜紹介する

授業概要と目的
<p>社会福祉士の養成過程において、「講義科目での知識学習」、「演習での模擬的体験」、「実践現場における実践的な技術等の体得」というように「講義・演習・実習」が相互に関連し、それらを循環させながら学んでいくことが重要である。</p> <p>本講では、それまでに学んできた「講義」「演習」「実習指導」を踏まえながら、実際に施設等に約 1 か月の間身を置きながら実践を学ぶことを主として展開するが、ねらいは以下の 3 点である。</p> <p>◎ 相談援助実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。</p> <p>◎ 社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。</p> <p>◎ 関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。</p> <p>上記のねらいをめざして、相談援助実習中（および実習前後）は、「相談援助実習指導」科目と連動させながら学びを深めていくことが重要となるが、特に「教員による巡回・帰校指導」を通して、実践的な 1 つ 1 つの体験について“学び”として理解できるよう指導していくこととなる。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
24 日間 以上 ・ 180 時間 以上	実習期間中	<p>①「利用者や施設職員およびさまざまな関係者（家族、施設関連、地域等）と基本的なコミュニケーション、人間関係の形成ができる」</p> <p>②「利用者理解（ニーズ把握と計画作成）ができる」</p>	<p>左記の一般目標についての到達目標は、実習生（種別、実習先特性、実習生特性、実習の進度）によって異なるため、</p> <p>《巡回指導および帰校指導時》において、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習日誌 ・実習生自身の感想 ・実習指導者の感想 <p>等を参考にして教員が状況を把握し、</p>	成田 高山 檜垣 鈴木

		<p>③「利用者およびその家族等との関係形成ができる」</p> <p>④「利用者およびその家族等への権利擁護とエンパワメントについて理解できる」</p> <p>⑤「チームアプローチや多職種連携の実際を知ることができる」</p> <p>⑥「社会福祉士としての倫理および施設等の組織の役割について理解できる」</p> <p>⑦「実習先施設・法人の運営概要について知ることができる」</p> <p>⑧「実習先施設・法人と地域との関係や取り組みについて理解できる」</p>	<p>個別的に到達目標を提示して、個々に沿った指導を実施する。</p>	
<p>成績評価方法</p>	<p>・相談援助実習の実施状況および内容（施設指導者による評価を含む） これらを踏まえて総合的に評価する。</p>			
<p>準備学習など</p>	<p>学び得た経験について、また、疑問や不明な点が浮かんだ際には、担当教員を中心に遠慮なく質問してほしい。</p> <p>実習で触れたさまざまな経験について、他者との共有や対話を重ねることによって、自分自身のなかに何となく、ぼんやりとでも「ソーシャルワークの道筋」を見出すことが学生時の目標であり、実践者としての出発点となるといえる。</p>			

